

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 小学校英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	小学校に英語指導助手を配置し、英会話や外国の文化について興味を持たせ、英語力の向上に繋げる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	7,200	7,184	7,169	7,200	13,864
		B. 執行済額	7,200	7,165	7,021	7,131	13,825
		うち交付金充当額	5,760	5,732	5,616	5,704	11,060
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.7%	97.9%	99.0%	99.7%
	予算の状況の説明 小学校英語指導助手6名のうち2名が4月途中からの採用となったことや、交付対象外経費が発生したことにより、予算額が413千円の減額、予算執行率が99.7%となった。						
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		小学校英語指導助手配置数:6人 ・4名 4校各1名 ・2名 中学校区各1名	目標 (4人)	(4人)	(4人)	(6人)	
		実績 4人	4人	4人	6人		
		目標 ()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明 町内小学校4校全てと2中学校区に1人ずつ全てに英語指導助手を配置することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う児童の割合:80%以上	目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()	
		実績		77.10%	78.00%	79.50%	
		目標 ()	()	()	()	()	
		実績					
進捗状況説明 3月に4小学校の児童に対しランダムでアンケート調査を行った。その結果79.5%と目標まで0.5%足りない結果となり、目標達成には至らなかった。							

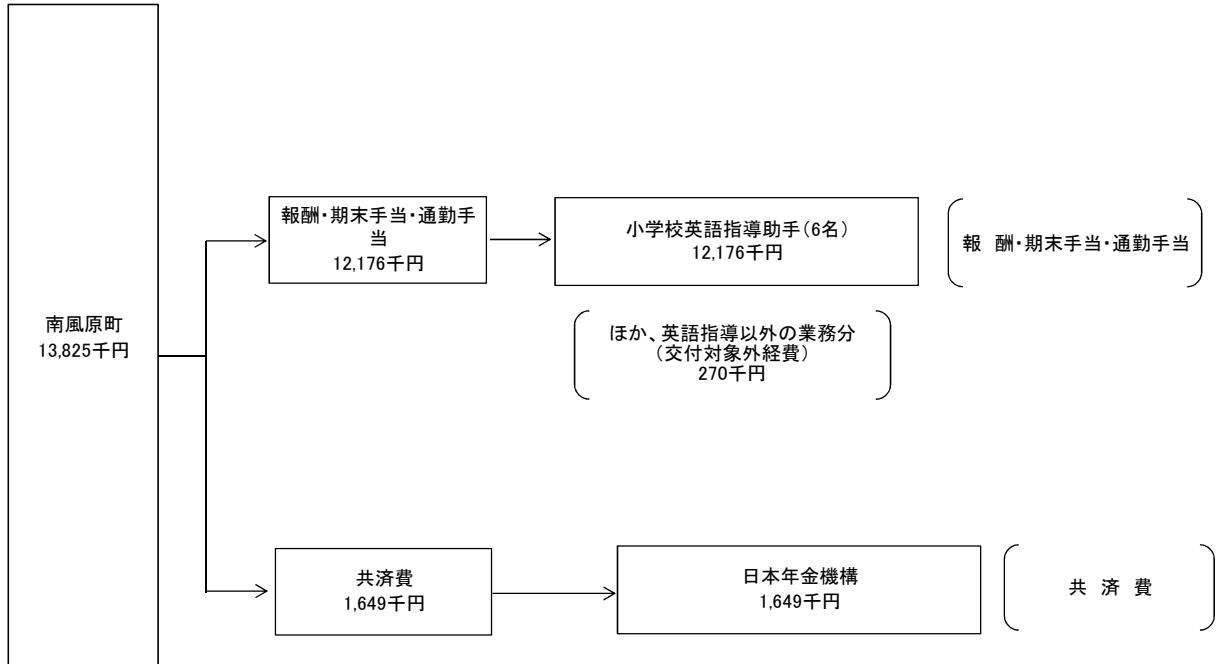
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度より追加で各中学校区に1名ずつ小学校英語指導助手を配置したこともあり、成果目標にはわずかに届かなかったが、概ね近づくことができた。	目標には近づいているが、英語への関心が低い児童もまだいるため、そのような児童に関心を持たせるために、授業のさらなる改善を行う必要がある。

今後の取り組み方針

引き続き英語指導助手の配置を行いつつ、授業の改善のために研修等を行い、児童が英語教育に関心を持つようにゲームや歌等を取り入れつつ授業を展開させる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,095	13,825	11,060	2,765	270



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手の選定は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた給料や手当等を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③ 学力調査等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
	担当部署名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進
事業内容			個々の学力を把握することで一人ひとりの課題を明確にし、児童生徒のさらなる学力向上に繋げるため、学力調査等を実施する。				
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	3,433	4,230	4,451	4,530	4,895
	(b) 予算現額	3,172	4,230	4,451	4,530	3,994	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 261	0	0	0	▲ 901	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	3,172	4,230	4,451	4,530	3,994	
	B. 執行済額	3,171	3,929	4,127	4,235	3,977	
	うち交付金充当額	2,536	3,143	3,301	3,387	3,181	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	92.9%	92.7%	93.5%	99.6%	
予算の状況の説明	予算については、当初先進地視察研修を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大の影響による視察研修中止等により、901千円を減額した。 町内全ての小中学校(小学校4校、中学校2校)において学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学力調査等の実施 小学校4校中4校 (国語・算数・5年生理科) 中学校2校中2校 (国語・数学・理科・社会・英語)	目標	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	()	
		実績	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校		
	①学力調査の実施 ・小学校 1年~2年 ・中学校 3年 ②リーディングスキルテストの実施 ・小学校 6年 ・中学校 1年~2年	目標	()	()	()	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	
実績					小学校4校中4校 中学校2校中2校		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査を、目標の小学校4校中4校で実施できた。 中3学力調査を目標の中学校2校中2校で実施できた。 リーディングスキルテストを目標の中学校2校中2校で実施できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 小学校:13科目/13科目 中学校:1科目以上/10科目	目標	()	(小学校:全科目 中学校:3科目以上)	(小学校:全科目 中学校:1科目以上)	()	()
		実績		小学校:12科目 中学校:0科目	小学校:12科目 中学校:2科目		
	県学力到達度調査の平均正答率が県平均以上の科目数 小学校:全科目/7科目 中学校:全科目/6科目	目標	()	(小学校:全科目 中学校:全科目)	(小学校:全科目 中学校:全科目)	()	()
		実績		小学校:6科目 中学校:全科目	小学校:6科目 中学校:全科目		
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 ・小学6年 算数+0.7ポイント以上 ・中学1年 数学+9.1ポイント以上 ・中学2年 数学+6.6ポイント以上	目標	()	()	()	(小6 算数+0.7 中1 数学+9.1 中2 数学+6.6)	()
実績					小6 算数-3.3 中1 数学+1.6 中2 数学+3.4		
標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 ・小学1~2年:2科目(全科目)	目標	()	()	()	(小学1年~2年: 2科目(全科目))	()	
	実績				小学校:1年(2科目) 2年(0科目)		

進
捗
状
況
説
明

・標準学力調査の実施により、選択式の問題は解答できるが、問題を読み取り自らの考えを書いたり、式を導き出すといった思考力の部分で課題が見えた。

・小1で国語、算数ともに全国平均を上回った。小2は国語、算数ともに全国平均を下回った。

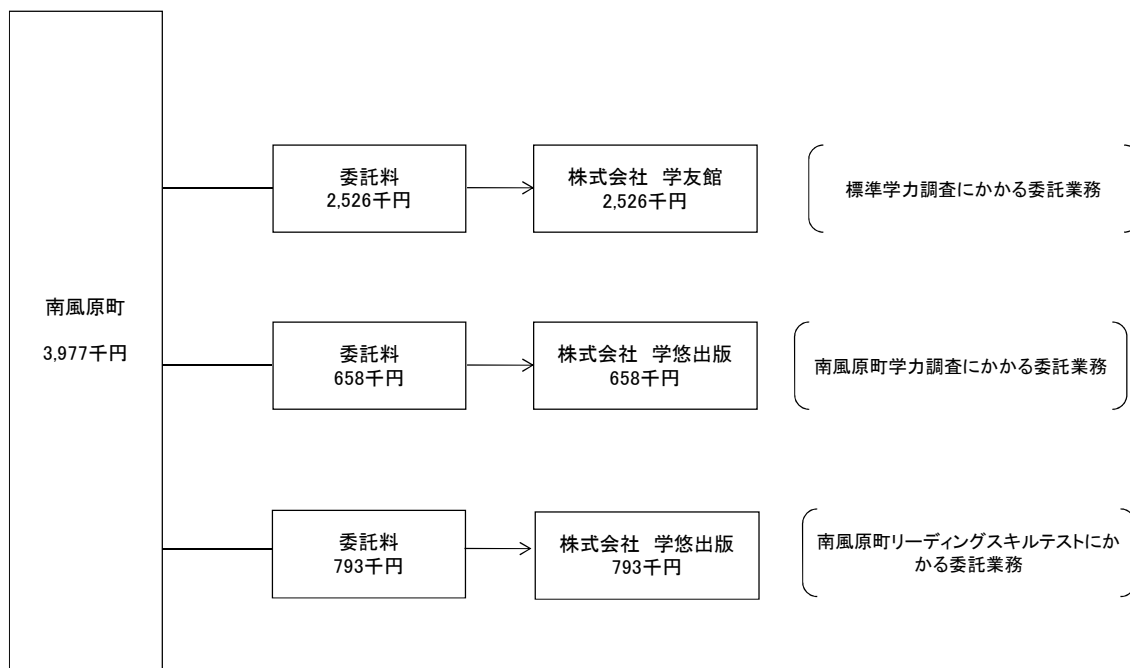
・県学力到達調査の平均正答率は小学校・中学校共に算数・数学を目標にしていたところ、目標に届かなかった。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の標準学力調査で全国平均を下回った小2は、国語では、選択式問題では全国平均と同等であったが、指定された字数で書く、自分の考えを書くといった記述形式の問題で全国平均を下回った。また、算数では、選択式の問題やかけ算九九では正答率は全国平均となっているが、繰り上がり足し算、繰り下がり引き算の基礎的な計算、図を読み取った立式、時間やものさしの読み取りで全国平均を下回った。 ・中学校の学力到達度調査では、数学で目標値に届かなかった。しかし中2の国語以外は県平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、選択式の問題は解答できるが、問題を読み取り自らの考えを書いたり、式を導き出すといった思考力の部分で課題があるので、課題解決に向け引き続き学力の向上に努める。思考力を助けるために、写真や動画を使ってイメージできるように、授業改善に取り組む。 ・中学校においては、リーディングスキルテストをもとに読解力を意識して、授業を行い文章問題に取り組む力を養う必要がある。 ・小中学校においては、全教科で読解力を意識した授業改善に努める。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年においては、全体的に「確かな学力」の取組の成果が出てきているので、今後も維持できるよう努める。学年があがるとともに学力が落ちないように、複雑になっていく授業内容を理解できるよう、写真や動画を使ってイメージを助ける教材を活用しながら授業改善に取り組む。 ・中学校においては、教科書に書かれている事を読み取れるように読解力の強化に取り組むとともに、補習指導や家庭学習において類似問題等の反復練習により引き続き基礎基本の定着を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,977	3,977	3,181	796	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定方法は、全国で採用している市町村が多く、学力の比較がしやすい調査を実施している業者を選定し、随意契約とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、学力調査委託料として目的に即し、受験者数に応じ支出しており適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進		
事業内容	小・中学校に学習支援員を配置し、通常の授業について行けない児童生徒のフォローを行い、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	26,880	24,960	24,960	23,040	30,621
	(b) 予算現額	28,000	23,905	22,528	23,040	32,092	
	(c) 増減額(b-a)	1,120	▲1,055	▲2,432	0	1,471	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	28,000	23,905	22,528	23,040	32,092	
	B. 執行済額	27,863	23,879	22,258	22,005	31,530	
	うち交付金充当額	22,290	19,103	17,806	17,603	25,223	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.5%	99.9%	98.8%	95.5%	98.2%	
予算の状況の説明	小学校の研究指定校に2名追加で学習支援員を配置したため、当初予算額よりも1,471千円の増額となった。欠勤や途中退職等があり、執行率は98.2%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	目標	(小学校9人・中学校4人)	(小学校8人・中学校4人)	(小学校8人・中学校4人)	(小学校10人・中学校4人)		
	実績	小学校9人・中学校4人	小学校8人・中学校4人	小学校8人・中学校4人	小学校10人・中学校4人		
目標	()	()	()	()			
実績							
達成状況説明	小学校学習支援員は4小学校に2人ずつと研究指定校の小学校に追加で2名の合計10人を配置し、中学校学習支援員は各中学校に2人ずつの合計4人を配置することにより、予定していた人数の学習支援員を各小中学校へ配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	目標	沖縄県学力到達度調査の県と本町との平均正答率の差の合計	()	()	()	(算数+6.9ポイント以上 国語+3.8ポイント以上)	()
	実績	小学校 算数+6.9ポイント以上、国語+3.8ポイント以上				沖縄県学力到達度調査中止	
	目標	沖縄県学力到達度調査の県と本町との平均正答率の差の合計	()	()	()	(数学+1.7ポイント以上 理科+1.3ポイント以上 社会+0.1ポイント以上 英語+3.0ポイント以上)	()
実績	中学校 数学+1.7ポイント以上、理科+1.3ポイント以上 社会+0.1ポイント以上、英語+3.0ポイント以上				沖縄県学力到達度調査中止		
目標	標準学力調査の平均正答率が目標値以上の科目数	()	小学校:全科目 中学校:2科目以上	小学校:全科目 中学校:1科目以上	()	()	
実績	小学校:4科目/4科目 中学校:1科目以上/8科目		小学校:全科目 中学校:0科目	小学校:全科目 中学校:1科目			
進捗状況説明	成果目標の指標としていた沖縄県学力到達度調査について県の意向により、小学校の3・4年生及び中学校の理科の調査が中止となったため、小学校については学びのたしかめ(県学力定着状況調査)、中学校理科については学力調査を用いて進捗状況の説明を行う。また、中学校社会においては支援員の配置がなかったため、中学校については数学・英語・理科の結果を用いて説明を行う。小学校については県と本町との平均正答率の差の合計を指標としたところ算数は-3.8ポイント、国語が-1.0ポイントとなり、県平均を超えることができなかった。中学校については数学が+5.0ポイント、英語が+8.9ポイント、理科が+1.0ポイントとなり、全科目で県平均を超えることができた。						

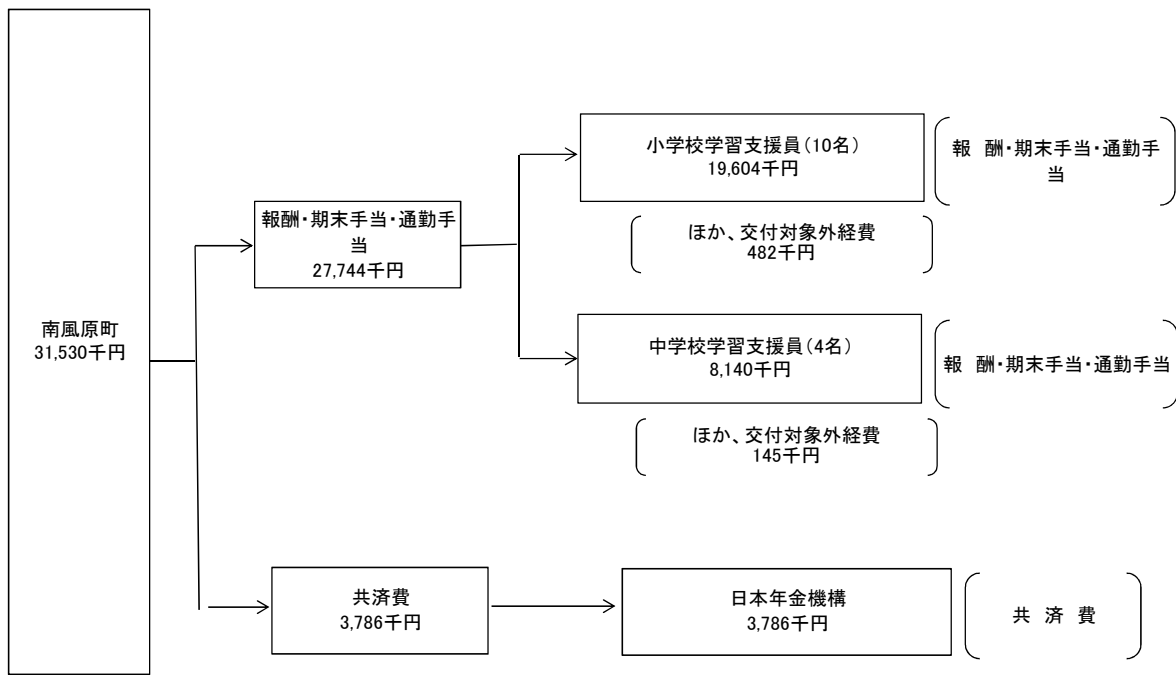
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校について、比較するテストは異なるが、今までは県平均を上回っていたが、今年度は県平均を下回っており、今年度学習支援員を2名追加しているが、すぐに結果は出なかった。 ・中学校については比較した全科目で県平均を上回っており、学習支援員配置事業の効果が出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は結果を分析し、学習支援員を活用しながら基礎学力の向上や苦手分野の克服を行っていく。 ・中学校について今後も目標を達成できるように、授業内容の工夫・改善を行っていき、学力の定着を図っていく。

今後の取り組み方針

今後も学習支援員の配置を行っていき、学力の向上を図っていく。学力向上のために、教員と学習支援員の授業力向上及び連携強化が必要となるため、研修等を積極的に行い、より質の高い授業が展開できるようにしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
32,157	31,530	25,223	6,307	627



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目用途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	通常学級で一斉指導についていけない発達障害等のある子どもに対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	74,267	62,080	68,741	68,466	88,900
		(b) 予算現額	57,606	51,612	59,465	51,585	77,431
		(c) 増減額(b-a)	▲ 16,661	▲ 10,468	▲ 9,276	▲ 16,881	▲ 11,469
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		57,606	51,612	59,465	51,585	77,431
	B. 執行済額		55,794	48,822	57,239	48,572	74,508
	うち交付金充当額		44,635	39,057	45,791	38,857	59,606
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.9%	94.6%	96.3%	94.2%	96.2%
予算の状況の説明		全幼稚園、全小・中学校へ特別支援教育支援員の配置を行ったが、中途退職・中途採用があったため執行率は96.2%となった。 予定していた支援員の配置ができず欠員が生じた期間があったことから、3月補正等において11,469千円の減額を行った。また、不用額2,923千円については、計画どおり支援員を配置することができなかったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	特別支援教育支援員配置数 幼稚園:20人、小学校:26人、中学校:5人		目標 (幼稚園10名・小学校29名・中学校6名)	(幼稚園20名・小学校32名・中学校5名)	(幼稚園19名・小学校26名・中学校5名)	(幼稚園20名・小学校26名・中学校5名)	
			実績 (幼稚園15名・小学校30名・中学校5名)	(幼稚園20名・小学校30名・中学校5名)	(幼稚園19名・小学校23名・中学校5名)	(幼稚園17名・小学校23名・中学校5名)	
			目標 ()	()	()	()	
達成状況説明		小学校においては、特別支援教育支援員の応募者が足りなかったことから目標配置数に3名届かなかった。また幼稚園においても同様で目標配置数に3名届かなかったが、全体的には包括的な配置をおこなう事が出来た。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度 80%以上		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	93.8%	87.5%	92.5%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		特別支援教育支援員の対応への満足度については、対象児童となる保護者へのアンケートを実施し、82名からの回答を集計した結果、満足度92.5%であり、目標を達成した。					

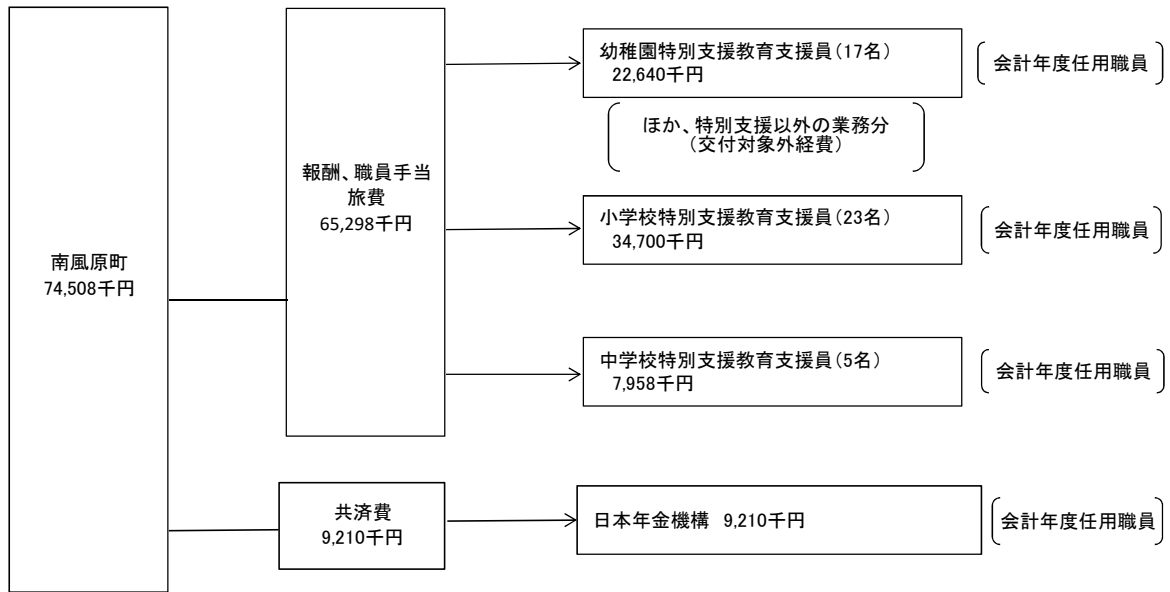
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	インクルーシブ教育が推奨されるなか、本町の特別支援教育学級数は増加傾向にあり、学校からも特別支援教育支援員の配置要望が増えてきている。	特別支援教育支援員の支援を要する児童生徒へは、特別支援教育支援員を配置し対応するとともに、インクルーシブ教育に向けた教職員の資質向上にも取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

- ・教育委員会に特別支援教育相談員を配置し、インクルーシブ教育の推進に向けた教職員研修に取り組む。
- ・特別支援教育支援員の資質向上に向け、研修会を設け、支援を要する児童生徒に対し、きめ細かな対応に取り組む。
- ・特別支援相談員と教職員が、学校現場で情報を収集し、効率よい特別支援教育支援員の配置に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
75,174	74,508	59,606	14,902	666



資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の選定は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。(各学校に必要な配置を行っており、不用額は予算規模の5%以内であることから適正な規模であった)
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途が事業目的に即しているかについては「南風原町会計年度任用職員の勤務時間、休暇等に関する規則」に決められた月給を支払っており適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 学校ICT推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ア	
	担当部署名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進
事業内容		教員のICT機器の習熟や授業での効果的な活用、及び学校教育の質を確保するため、ICT支援員を配置する。また、児童生徒が授業に対し、興味や集中力を高めることができるよう電子黒板用タブレットPC等やデジタル教科書の整備を図る。					
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a)当初予算額	22,713	46,825	13,307	6,720	95,405
	(b)予算現額	21,170	43,534	13,307	6,720	85,075	
	(c)増減額(b-a)	▲1,543	▲3,291	0	0	▲10,330	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	21,170	43,534	13,307	6,720	85,075	
	B.執行済額	20,498	43,513	13,306	6,715	85,074	
	うち交付金充当額	16,398	34,810	10,644	5,371	68,059	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.8%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	
予算の状況の説明	ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小・中学校に配置した。また、電子黒板用タブレットPC等やデジタル教科書の整備を図った。執行率は100%執行することができ、計画していた事業内容を全て実施することができた。なお、予算の10,330千円の減については、備品購入費の入札残及びICT支援員の確保が難しかったことにより2名から1名の配置になったことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟	目標	()	(教員のICT機器の習熟)	(教員のICT機器の習熟)	()	
		実績		教員のICT機器の習熟度向上	教員のICT機器の習熟度向上		
	ICT支援員配置:1名配置	目標	(2名)	(2名)	(1名)	(1名)	
		実績	2名	2名	1名	1名	
・4小学校、2中学校へタブレットPC等を整備 小学校:106教室 中学校:43教室	目標	()	()	()	(小学校:106教室 中学校:43教室)		
	実績				小学校:106教室 中学校:43教室		
達成状況説明	ICT支援員を小・中学校で1名配置することができ、教員のICT機器の習熟度を向上することができた。小学校106教室、中学校43教室へ電子黒板用タブレットPC等を整備することができ、児童生徒が授業に対し、興味や集中力を高めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		①教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合:80%以上	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)
		実績		95.90%	89.37%	94.68%	
	②児童生徒にアンケートを実施し、タブレットPC等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合:80%以上	目標	()	()	()	(80%)	()
	実績				73.15%		
進捗状況説明	成果目標①においては、3月に教員にアンケートを実施した。その結果、94.68%が習熟度が上がったと答え、目標を達成することができた。また、ICT支援員を配置したことによって、電子黒板や書画カメラなどを積極的に活用していくことができ、わかりやすく魅力ある授業に取り組むことで、教育の質の向上に繋げることができた。更にはオンラインを活用した授業や行事などを実施することができ、教育環境の維持に努めることができた。 成果目標②においては、3月に児童生徒に対しランダムで抽出を行いアンケートを実施した。その結果、目標達成には至らなかったが73.15%が電子黒板用タブレットPC等の整備をしたことで授業が楽しく分かりやすかったと答え、目標に近い結果となった。						

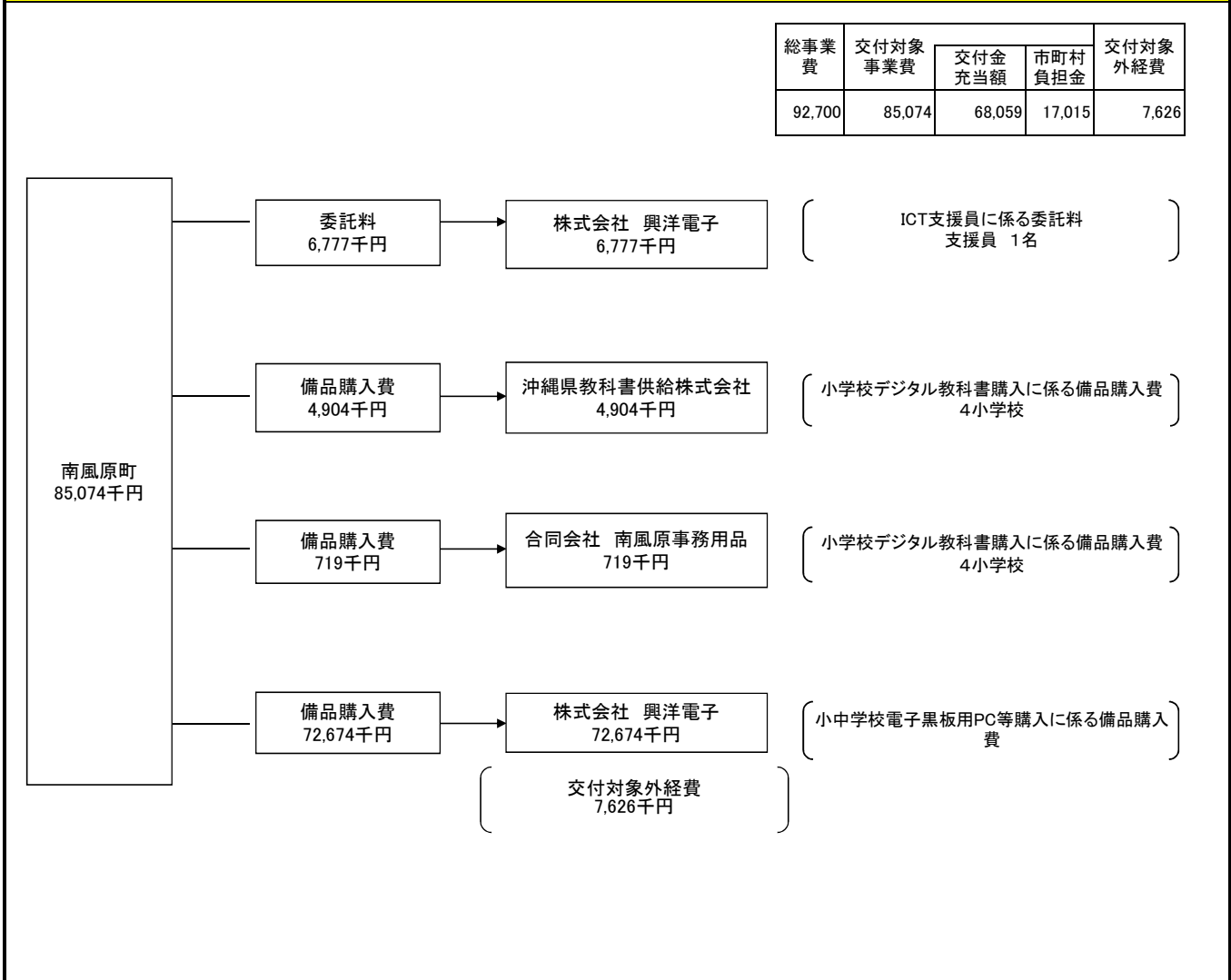
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) ICT支援員を配置したことにより、教員による学校ICT機器の活用を積極的に行えることができた。また、特に今年度はコロナ禍の影響により、授業だけではなく行事なども含め様々な場面に使用していたため、ICT支援員が持っているスキルを学び、教員のICT機器の習熟度の向上を図ることができた。その結果、児童・生徒への分かりやすい授業へと繋げることができた。 (タブレットPC等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合) 今年度において、電子黒板で活用するパソコンをタブレットPC等にするなど機能強化をおこなった。また、成果目標として「タブレットPC等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすくと答えた割合:80%以上」としたが、アンケート調査結果では73.15%と、目標の80%以上には届かなかった。要因としては、たまに起こる不具合や場所や時間帯によっては電子黒板が見えづらかったことがあげられる。	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) 引き続き成果目標を80%以上と設定し、コロナ禍が続く状況においても積極的にICT機器を活用できるよう、教員の習熟度を上げていく。そのためには、教員が進んでICT機器を活用した授業などに取り組んでいき、ICT支援員と更なる連携、情報共有を図っていく。 (タブレットPC等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすくと答えた割合) ICT機器を活用した授業をすることで、児童生徒が集中して授業を受けることができるのはもちろんのこと、電子黒板では画像、動画、インターネットなどができることから、様々なツールを活用した授業を行い、楽しく分かりやすい授業ができるようICT機器の環境を維持していく。

今後の取り組み方針

(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟)
ICT機器の活用を積極的に行うことで、教員のICT機器の習熟度をあげていく。そのためには、ICT支援員と連携をおこない学校内での研修や資料などによる情報の提供や共有などを実施し、活用提案などをおこなっていく。また、苦手な教員や経験が浅い初任者の教員についても個別研修などを行い、ICT機器の習熟度の向上に繋げていく。

(タブレットPC等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすくと答えた割合)
画像や動画、インターネットを活用した授業を行うことで、児童生徒の集中力を促し、楽しく分かりやすい授業環境を構築していく。そのためには、教員のICT機器の習熟度をあげるのはもちろんのこと、機器などの環境整備にも力を入れ、不具合などが発生しないよう努めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ICT支援員委託事業はプロポーザル方式で選定を行っており、妥当であった。 ○小学校デジタル教科書購入事業は専売期間がある教科については、随意契約を行い、専売期間がない教科については指名競争入札を行ったことから妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○小中学校電子黒板用PC等購入事業は指名競争入札を行ったことから妥当であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○各事業に係る予算が適正に積算されており、不用額もないことから予算規模は適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については各事業における必要経費であり、目的に即し、必要のものであったと判断した。

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦ 教育相談支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	家庭・地域の教育機能の充実		
事業内容	不登校児童生徒の支援のため、青少年教育相談員、特別支援教育相談員、自立支援教室支援員、適応指導教室学習支援員、心の教室相談員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,943	16,142	16,143	16,143	19,629
		(b) 予算現額	6,793	16,139	15,854	15,614	19,381
		(c) 増減額(b-a)	▲2,150	▲3	▲289	▲529	▲248
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		6,793	16,139	15,854	15,614	19,381
	B. 執行済額		6,768	15,333	15,853	15,495	19,379
	うち交付金充当額		5,414	12,266	12,682	12,396	15,503
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.6%	95.0%	100.0%	99.2%	100.0%
予算の状況の説明		適応指導教室の学習支援員の1名について、勤務時間が7時間から6時間勤務での採用となったことや、交付対象外経費が発生したことにより248千円減額となった。また、執行率については100%となっており、必要な人員の配置は全て行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	・青少年教育相談員 1名配置 ・特別支援教育相談員 1名配置 ・自立支援教室支援員 2名配置 ・適応指導教室学習支援員 2名配置 ・心の教室相談員 5名配置		目標	(配置)	(配置)	(配置)	(配置)
			実績	配置	配置	配置	配置
			目標	()	()	()	()
		実績					
達成状況説明	町内の小中学校に青少年教育相談員1名、特別支援教育相談員1名、自立支援教室支援員2名、適応指導教室学習支援員2名、心の教室相談員5名を配置し児童生徒・保護者・教職員への指導助言を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	不登校児童生徒復帰率 26.5%		目標	() (60%)	(60%)	(26.5%)	()
			実績		37.1%	22.4%	25.0%
	【参考指標】不登校児童生徒復帰率(全国)		目標	() ()	()	()	()
			実績		25.3%	26.5%	22.8%
進捗状況説明	不登校児童生徒復帰率については、昨年度の22.4%から25.0%に増加し目標値は下回ってはいるが、全国値の22.8%は上回った。						

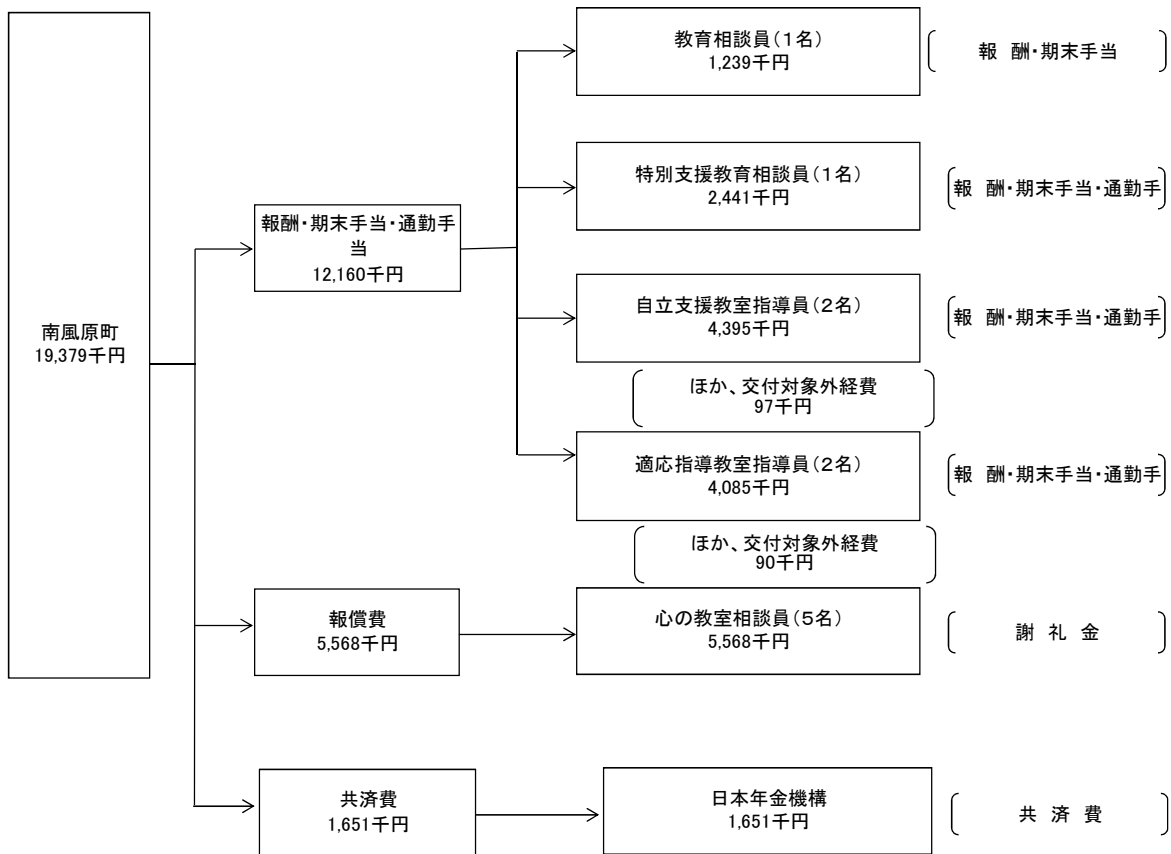
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒数は昨年度に比べ20人減少し、登校復帰率も22.4%から25.0%に改善した。 ・不登校になった児童生徒の主な要因は、小学校、中学校ともに「無気力、不安」が最多となっており昨年度と同じであるが中学校の件数は大幅に減少している。 ・小学校、中学校ともに「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が多く、長期休業での生活リズムの乱れを要因として休業明けに不登校が増える傾向にある。 ・不登校児童生徒数は減少しているものの、新型コロナウイルスによる長期臨時休校の影響も考えられるため、不登校児童生徒数の改善については十分に検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の要因を検証し、効果的なアプローチに取り組む必要がある。 ・長期休業明けに重点的に相談を行う取り組みを検討する。 ・不登校の恐れがある児童生徒を早期に把握し、対応にあたる必要がある。 ・新型コロナウイルスに係る影響を検証し、不登校の未然防止に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

- ・目標としている不登校児童生徒登校復帰率の達成に向け、引き続き教育相談員等の配置を行うとともに、学校、保護者と連携を密にとり、不登校要因の把握に取り組む。
- ・学校と行政が連携し普段の教育相談を充実させ早期に対応することで、不登校の未然防止及び登校復帰に取り組む。
- ・不登校の未然防止による不登校数の改善を図るため、作業療法士を学校に派遣し、学習環境等にうまく適応できない児童生徒についての教諭等への助言や研修を行い児童生徒の多様性に対応した教育環境の構築に取り組む。
- ・欠席状況等の情報を収集し、不登校になりそうな児童生徒を予測したり休みがちな児童生徒に教育相談を行ったりするなどの各時期の対応を行っていくことを検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
19,566	19,379	15,503	3,876	187



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員、特別支援教育相談員、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則」に決められた報酬を支払っており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町							
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧ 中学校外国人英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
事業内容	中学校に外国人英語指導助手を配置し、英語学力の向上を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	3,780	3,780	3,780	3,780	4,944	
		(b) 予算現額	3,780	3,780	3,780	3,465	4,880	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 315	▲ 64	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	3,780	3,780	3,780	3,465	4,880		
	B. 執行済額	3,780	3,780	3,722	3,436	4,880		
	うち交付金充当額	3,024	3,024	2,977	2,748	3,903		
	次年度繰越額	0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.5%	99.2%	100.0%		
予算の状況の説明	予算については会計年度任用職員報酬に一部交付対象外経費が発生したことから64千円を減額した。執行率100%となっており、必要な人員の配置を行うことができた。							
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	中学校に外国人英語指導助手を1名配置する。		目標 (1人)	(1人)	(1人)	(1人)		
			実績	1人	1人	1人		
			目標	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	目標どおり外国人英語指導助手を年度当初から配置し、英語教育を展開することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	標準学力調査の平均正答率について、目標値との差を縮める。 1年:-1.9ポイント以内 2年:-13.8ポイント以内		目標	()	(1年:-2.6 2年:-2.7)	(1年:-1.9 2年:-13.8)	()	()
			実績	/	(1年:-1.0 2年:-13.6)	(1年:+0.3 2年:-14.4)	/	/
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 ・中学校 英語+3.0ポイント以上		目標	()	()	()	(+3.0ポイント以上)	()
			実績	/	/	/	+4.7ポイント	/
進捗状況説明	目標値を1.7ポイント上回り、目標を達成することができた。							

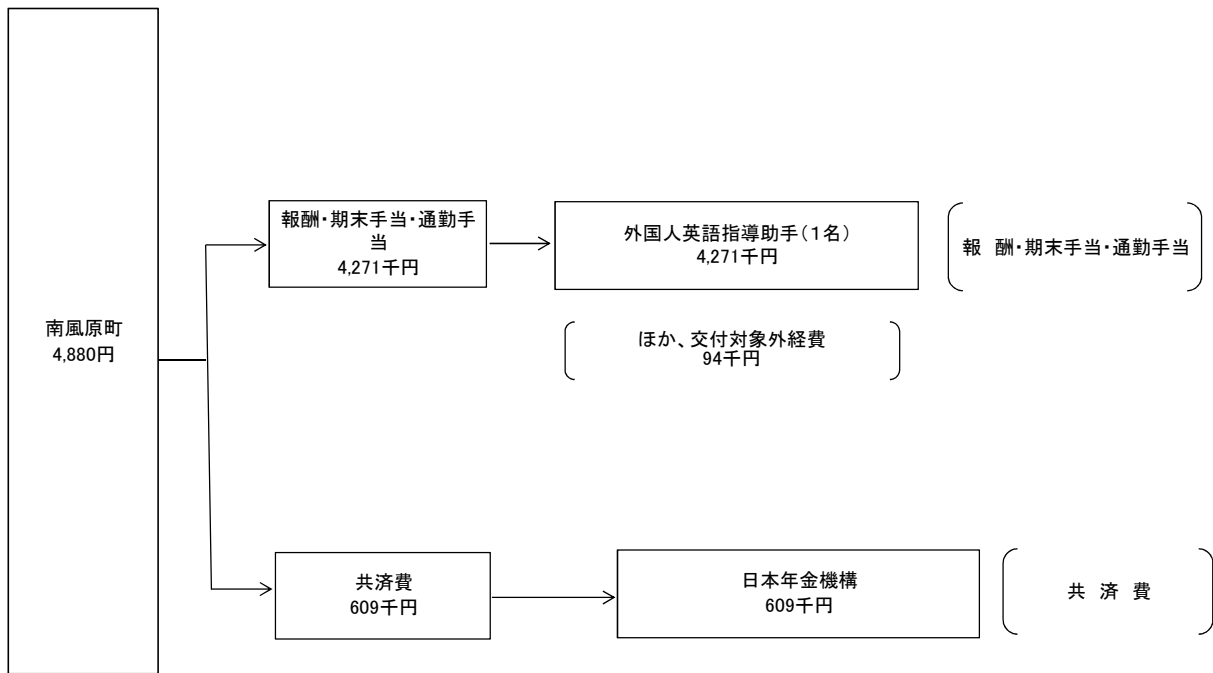
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	沖縄県学力到達度調査において本町の平均正答率が県の平均正答率より1.7ポイント上回っており、レベルの高い英語教育が展開されている。その中において、本事業はよりネイティブな発音で英語を聞くことができ、また、普段の日常生活でも身近に英語を感じることができる等、本町の英語教育にかかせない事業となっている。	さらに英語教育の質を向上させるためには、英語指導助手本人の指導力の向上および、英語の担当教員との連携強化が必要となる。

今後の取り組み方針

今後も英語指導助手を配置しつつ、英語指導助手も含めた研修等を行い、連携強化や指導力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,974	4,880	3,903	977	94



資金の流し、費用・点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語指導助手は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた給与を支払っており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩ 南風原町県外等派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976
		B. 執行済額	2,076	3,051	2,976	2,376	657
		うち交付金充当額	▲ 900	75	0	▲ 600	▲ 2,319
		次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	2,076	3,051	2,976	2,376	657	
		2,002	3,021	2,406	1,893	273	
		1,601	2,416	1,924	1,514	218	
		0	0	0	0	0	
		96.4%	99.0%	80.8%	79.7%	41.6%	
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの大会が中止となったため、予算が2,319千円減額になった。また、年度後半には一部大会が開催されたが実績として執行率が低くなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	目標	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	()	
		実績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施		
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援数50名	目標	()	()	()	(50名)	
実績					25名		
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、年度前半は大会が中止されたため、大会派遣数が目標の半分しか達成出来なかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	対象児童等の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者等に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		94%	83%	88%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	アンケートの結果では、他県の生徒のレベルの高さを実感することができ「広い視野を持つ事ができた」、「さらなる目標ができた」との回答が80%を超えた。						

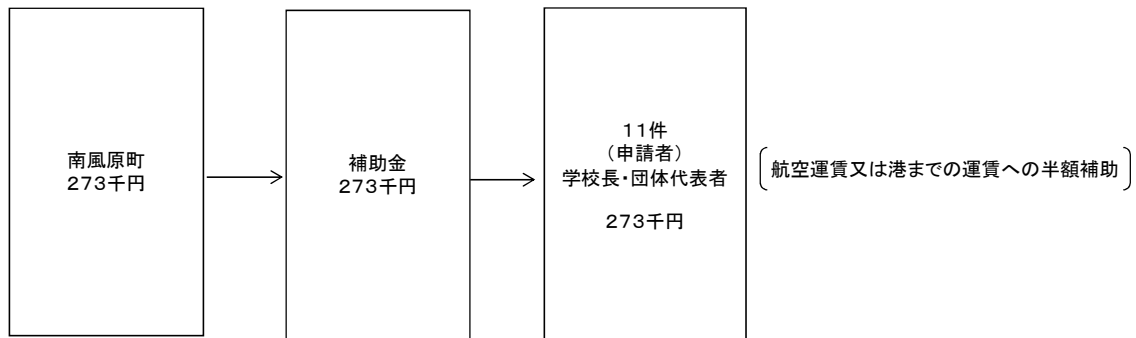
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>コロナウイルス感染症拡大のため、ほとんどの大会が中止となり派遣数が伸びなかったが支援した児童の保護者等のアンケート結果は目標値を超えており、事業の効果を確認できた。</p>	<p>次年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出るのが想定されるが、終息後に円滑に事業が実施できるよう状況を注視していく。</p>

今後の取り組み方針

新型コロナウイルス感染症の終息後、円滑に事業実施できるように学校に事業内容について周知する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
546	273	218	55	273



資金の流 用途の流 れ、費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、南風原町県外派遣に関する助成金交付要綱に照らして決定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援金額については普通運賃額を超えないように比較し、適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪ 南風原町幼稚園体育活動充実事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	幼少期に運動する楽しさを実感し、その後に運動習慣を身に付けるため、幼稚園児を対象に専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		2,281	1,711	1,711	1,729	1,743	
		1,046	1,711	1,711	1,743	1,743	
		▲ 1,235	0	0	14	0	
		—	—	—	—	—	
		1,046	1,711	1,711	1,743	1,743	
		1,046	1,711	1,711	1,728	1,549	
		836	1,368	1,368	1,382	1,239	
		0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	88.9%	
予算の状況の説明	当初計画どおり、プロポーザルにより業者を選定し、事業を執行することができた。 不用額194千円については新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休園によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標 ()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	町立4幼稚園で専門講師による体育指導を行い、各園5歳児24回、4歳児8回実施することができた。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1ヶ月間休園)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()	
		実績		94.24%	96.16%	98.31%	
		目標 ()	()	()	()	()	
	実績						
	進捗状況説明	運動する楽しさについて、園児355人中349人が体育遊びが好きと回答し(98.31%)、目標を上回る結果となった。また、保護者へのアンケートでは90.96%の保護者が運動能力があがったと実感しており、98.92%の保護者が本事業は良い取り組みだとの回答を得た。このことから、本事業は保護者や園児からも高い評価を得ており、あり方についても評価されている。					

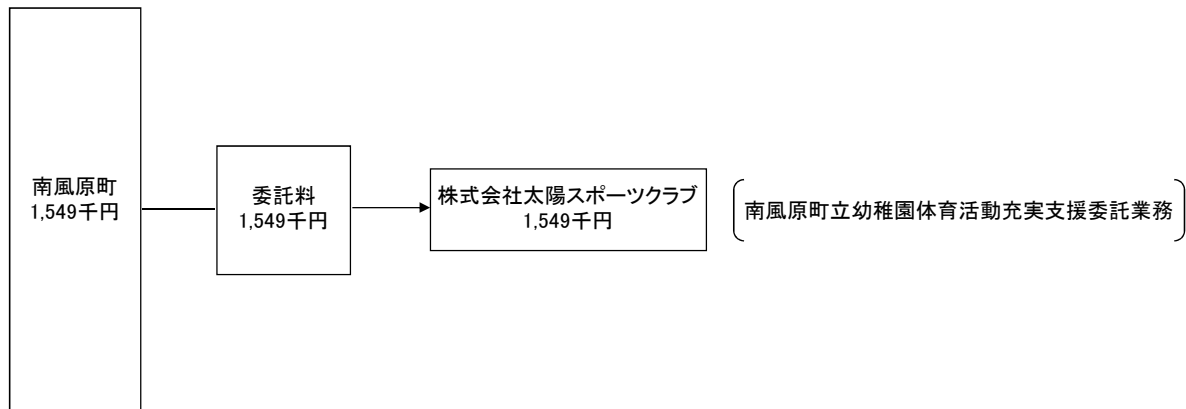
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標でもある運動する楽しさを実感してもらえるように、指導方法や日程等を事前に各園と調整し、実施スケジュールを組むことができた。また、幼稚園教諭への実技指導(講習・実技)も行った。	運動する楽しさを実感している園児が多く、現在事業の進め方については改善の余地はないと考える。幼稚園教諭への実技指導(講習・実技)も継続して行うことで、普段の幼稚園教育もより向上すると思う。

今後の取り組み方針

これまで同様、選定した受託事業者及び各幼稚園と連携し、園児に運動する楽しさを実感してもらえるように努める。引き続き、幼稚園教諭への指導も行い普段の幼稚園教育の活動に活かしてもらう。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,549	1,549	1,239	310	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約(プロポーザル実施)により実施しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額194千円は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休園によるものであり、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

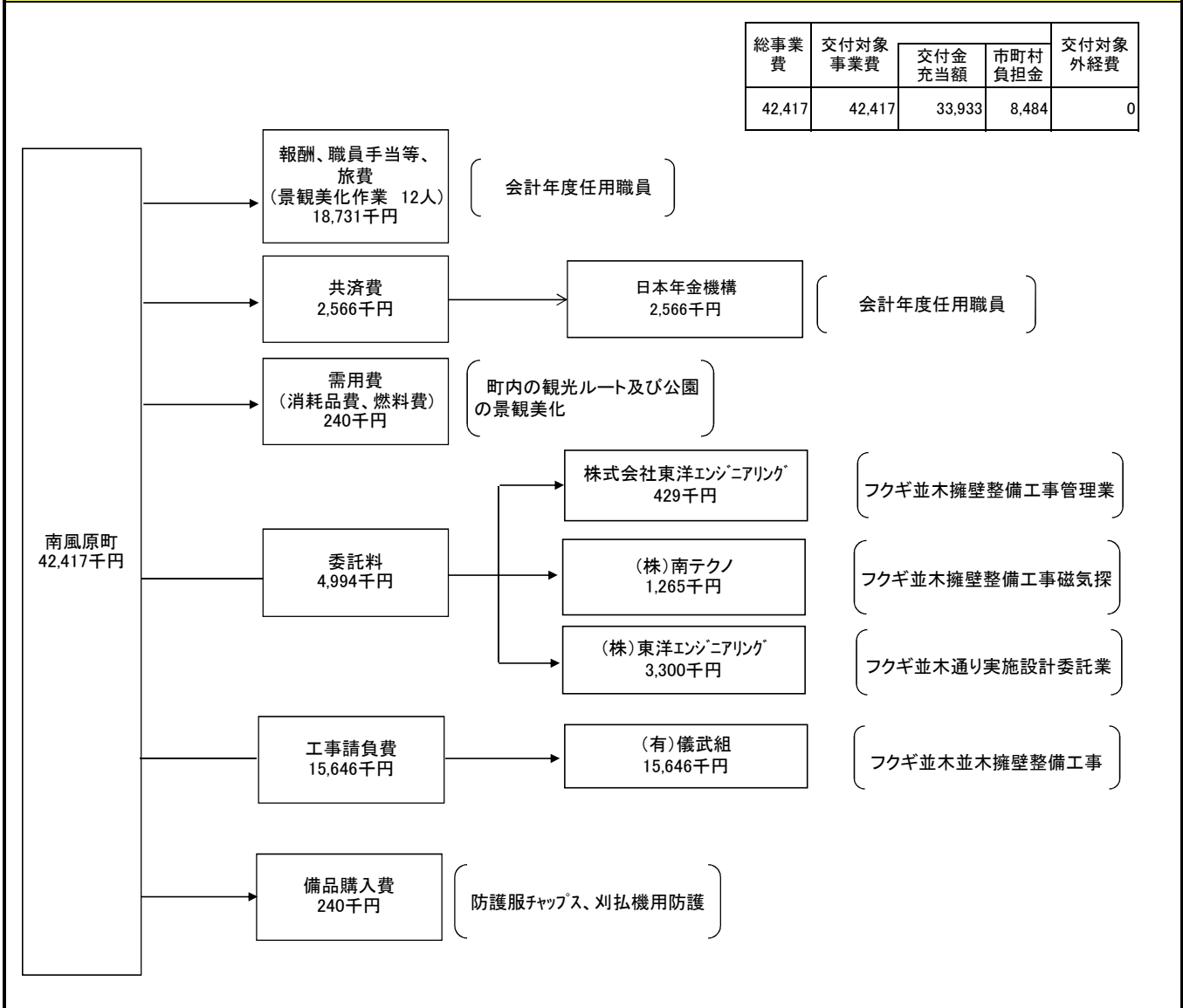
市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 南風原町観光景観美化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-ア		
	経済建設部 まちづくり振興課 経済建設部 都市整備課 民生部 こども課		事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度		沖縄らしい風景づくり		
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)		
事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光ルートとなる道路及び公園等の美化整備を行う。また、琉球王朝時代の番所跡に植樹されているフクギ並木の整備を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,442	6,780	6,780	6,782	34,482
		(b)予算現額	6,442	6,780	6,780	14,867	42,998
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	8,085	8,516
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	6,442	6,780	6,780	14,867	42,998	
		B. 執行済額					
		うち交付金充当額	4,883	5,247	5,320	10,794	33,933
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.8%	96.7%	98.1%	90.8%	98.6%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・観光ルートの美化整備は当初応募者がなく10人(R2.4~R2.6)でスタートし2カ月遅れで追加の2人を採用することとなり、1,208千円の減額となったがR2.7月からは計画より予算を執行し、事業を円滑に行う事ができた。 ・フクギ並木通りの実施設計は第2回変更で3,300千円を増額し計画通り執行した。 ・フクギ並木の整備にあたっては、R元年度に実施した実施設計業務によるボーリング調査の結果、整備予定地の軟弱地盤が確認されたことや、フクギ並木への浸食を低減する工法(擁壁・土壌改良・磁気探査含む)が必要になったことから、委託費(磁気探査業務)1,661千円を追加し、工事費4,763千円を増額して整備を行った。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	観光ルートの町道メンテナンス完了	目標	(L=12,600m)	(L=12,600m)	(18,400m)	(メンテナンス完了)	
		実績	L=12,600m	L=12,600m	18,400m	メンテナンス完了	
	公園6箇所の景観美化完了	目標	()	()	(公園6箇所)	(景観美化完了)	
		実績			公園6箇所	景観美化完了	
	フクギ並木の擁壁整備完了	目標	()	()	(L=40m)	(整備完了)	
		実績			L=40m	整備完了	
	フクギ並木通りの実施設計完了	目標	()	()	()	(実施設計完了)	
		実績				実施設計完了	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・景観美化作業員を12人雇用し、町道(18,400m)公園(6箇所)のメンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。 ・フクギ並木通りの実施設計は、文化財担当課等の関係部署と連携し、フクギ郡と一体となるよう配慮し、設計業務を完了した。 ・フクギ群への浸食低減を意識した工事を実施し、フクギ並木の整備として、擁壁工事を行った。擁壁の意匠については、フクギ並木との親和性を意識して工事を行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観形成が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		80%	80%	80%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		・道路美化に関するアンケートを行った結果、景観形成が図られたと思う割合が80%以上となっており、目標を達成する事ができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 今後も魅力的な観光地としての景観形成を継続して行く為には、観光ルート周辺の町道や公園の樹木の剪定や、清掃の美化整備を強化をする必要がある。本土に比べると雑草の生育が早く繁茂する期間が長い、道路及び公園の優先順位の見直しや増員について検討する必要がある。 フクギ並木通りの工事実施時は、設計時と同様に、フクギ群との一体化が図られた施設となっているかに留意しながら工事の管理をおこなう。 雑草の生育によりフクギ並木通りの景観が阻害されることが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の安心安全を確保するため、観光ルートである町道及び公園のメンテナンス(草木の伐採、清掃等による景観美化の管理)を恒常的に行い、歩道の植樹樹に花等を植え環境美化の充実を図る必要がある。 フクギ並木通りの整備時には、前年度工事との景観の連続性を意識し、休憩施設としてベンチの設置等も実施する必要がある。

今後の取り組み方針

- 亜熱帯特有で、本土に比べると雑草の生育が早く繁茂する期間が長い、除草だけではなく薬剤散布の適切な時期に実施するよう計画的に取り組んでいく。
- 前年度工事との景観の連続性を意識した通りの整備や、観光者が休憩できる施設としてベンチの設置を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。また、委託・工事請負費の各契約については地方自治法施行令に基づく随意契約若しくは指名競争入札により業者を選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は町の基準で精算されているので適正と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

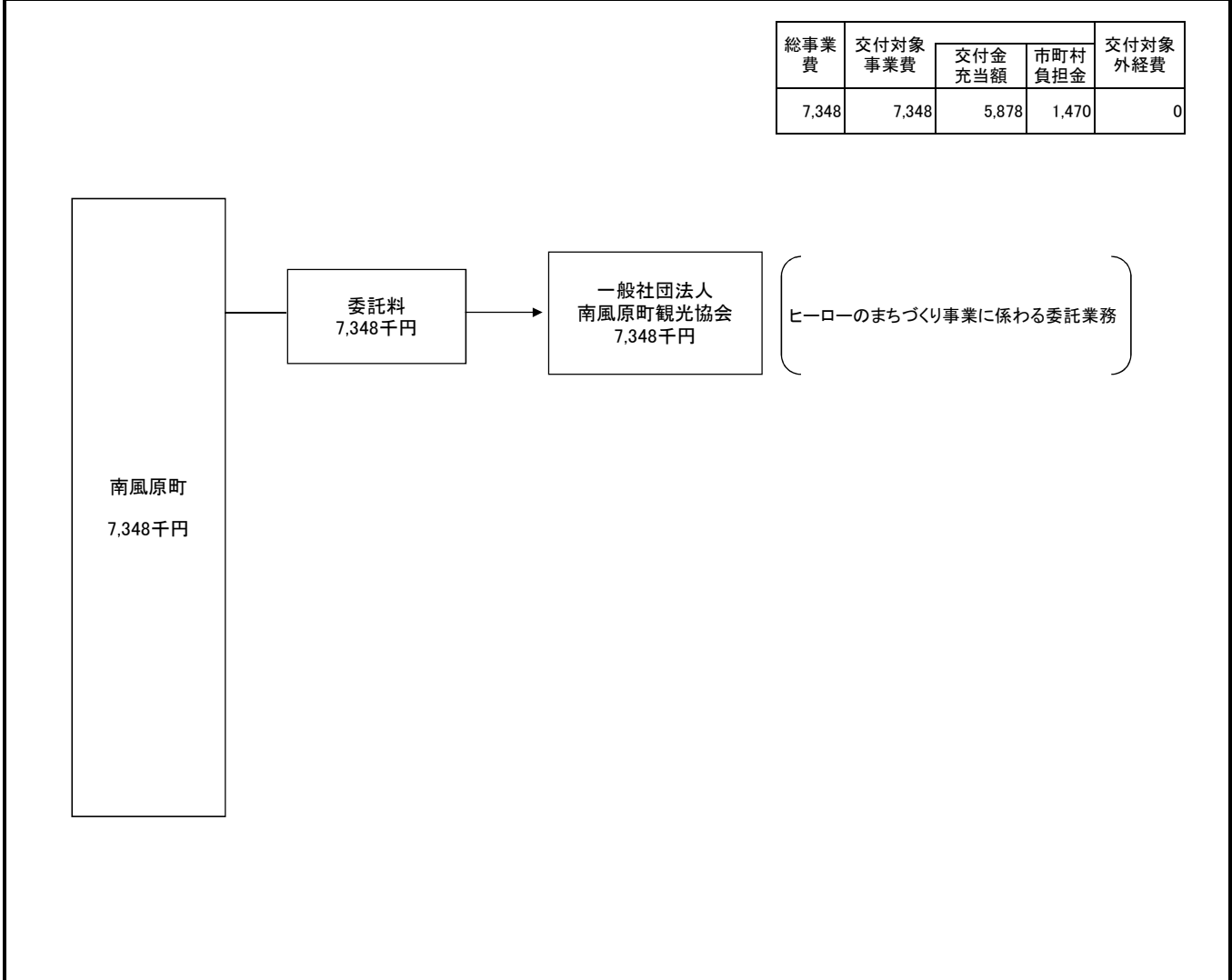
市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② ヒーローのまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本町の観光振興及び地域活性化のため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信イベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	7,999	7,310	7,310	7,440	7,436
		B. 執行済額	7,232	6,867	7,213	6,699	7,348
		うち交付金充当額	5,786	5,493	5,770	5,359	5,878
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	90.4%	93.9%	98.7%	90.0%	98.8%
	予算の状況の説明	当初計画していた事業は年度末の新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止等により減となっているが活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況				
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		イベント開催:1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)
実績			3回	4回	4回	3回	
脚本賞舞台化:1回		目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績	1回	1回	0回(中止)	1回	
達成状況説明	金城哲夫生誕地事業として、「金城哲夫ウェブ資料館」を公開した。また、「飛び安里風上げ大会」、「金城哲夫展」は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施し、「脚本賞受賞作品の舞台化」は新型コロナウイルス感染症対策を行い、来場者を制限した上で、YouTubeにてライブ配信を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		目標	()	(3,400人)	(3,200人)	(3,250人)	()
	実績		3,500人	1,063人	11,210人		
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
	進捗状況説明	イベント(上映会、風上げ、金城哲夫展等)来客者数について、金城哲夫ウェブ資料館に8,900人の視聴者、飛び安里風上げ大会に200人の参加、展示会に999名、舞台は来場者111名、ライブ配信視聴者1,000人で総計11,210名となったが、実際の来場者は新型コロナウイルス感染症対策で来場者を一部制限するなか1,310名となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント(上映会、風上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・上映会においてはコロナウイルス感染症拡大のため中止した。 風上げについては新型コロナウイルス感染症対策として風作り教室やもちつき大会を中止し規模を縮小して行った。 金城哲夫展は会場を役場ホール(エントランスホール)に変更して役場来場者が立ち寄れるようにした。また金城哲夫ウェブ資料館サイトを立ち上げ周知を図った。	(イベント(上映会、風上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・上映会は新型コロナウイルス感染症拡大下でも開催可能な方法の検証、風上げは風上げ教室等の再開できる方法の検証、金城哲夫展は来場者増を見込める会場の検証が必要で、ウェブ資料館においてもそのPRが必要と思われる。
	(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・舞台は新型コロナ感染症対策のため来場者を大きく制限し開催した。また同時にYouTube配信を行った。	(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・これまで実施してきた脚本賞の受賞作品を活かすため、派生脚本による舞台の開催を継続して行う。新型コロナ感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応した舞台化の検討を行い、YouTube配信においてはさらなるPRが必要と思われる。

今後の取り組み方針

(イベント(上映会、風上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・映画の上映会や金城哲夫展、脚本の舞台化のイベント実施時に新型コロナ感染症拡大防止策を講じ、集客増対策を行う。 ・金城哲夫アーカイブスを活用し、本町をヒーローのまちとして認知してもらう取り組みを強化する。
(脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・更なる作品の舞台化を行い、ヒーローのまちづくりの取り組みを強化する。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環でもあるYouTube配信を追加継続していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ シマじまガイド事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	住民が地元の歴史や文化を学ぶ機会を創出するとともに観光誘客を図るため、地域ガイドを活用したまち歩きツアー等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	9,071	7,436	10,448	10,521	10,516
		B. 執行済額	7,347	7,179	9,873	8,096	8,492
		うち交付金充当額	5,878	5,743	7,898	6,476	6,793
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	81.0%	96.5%	94.5%	77.0%	80.8%
	予算の状況の説明	・新型コロナウイルス感染症の影響等によりツアーの一部が中止になり不用額が生じた。					
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況			
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		ガイド養成新規2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)
実績			8名	0名	4名	2名	
シマじまガイド開催12回		目標	(12回)	(12回)	(12回)	(12回)	
		実績	12回	17回	12回	4回	
達成状況説明	・地域ガイド研修を4回開催しガイドのスキルアップを図った。その結果2人の新規のガイド養成を行うことができた。その中で新型コロナウイルス感染症対応としてガイドコースの一部(石獅子の紹介)をYouTube配信を行った。 ・シマじまガイドは新型コロナウイルス感染症の影響の中4回のみ開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	シマじまガイド事業参加者:1,700人	目標	()	(1460人)	(1460人)	(1700人)	()
		実績		1672人	882人	1,147人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・シマじまガイド事業について、ツアー参加者23人、イベント参加者90人の合計113人という結果になった。またイベント新型コロナ感染症対応としてイベント状況をYouTube配信し、1,034人の視聴があり、総計1,147人という結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により目標を達成することができなかった。					

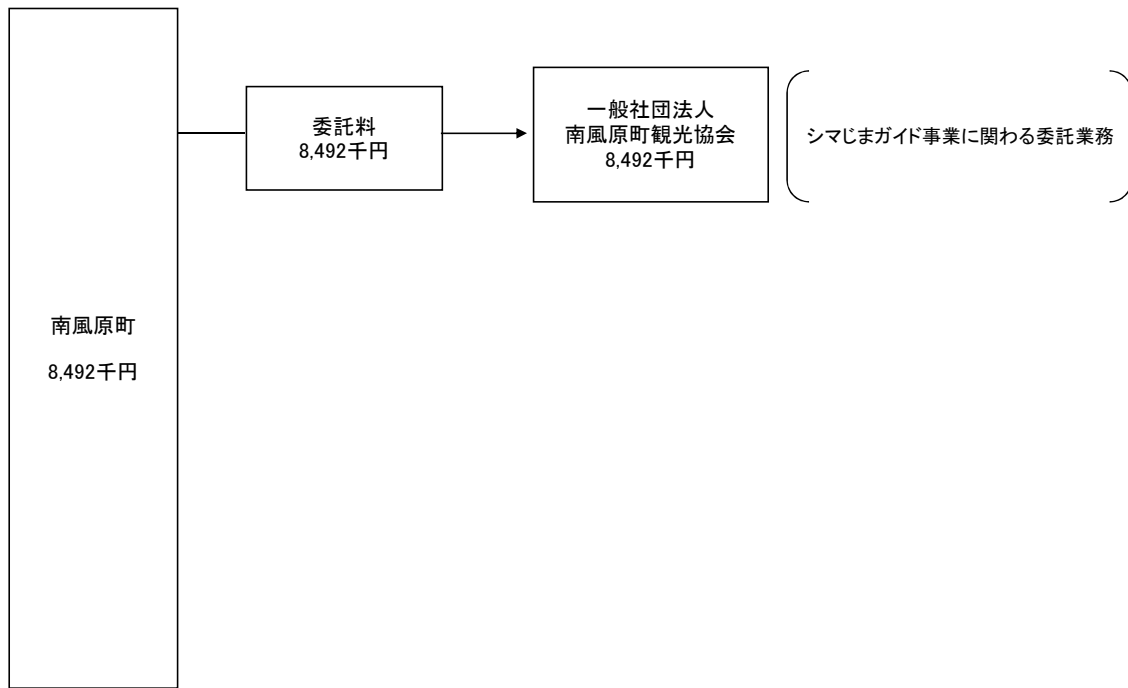
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・シマじまガイド参加者をさらに増やすために、周知拡大が不足している。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのツアー中止もあり、参加者が増えなかった。また、ツアーのPRも不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規参加者へのPR及びリピーターを増やすためガイドの質の向上、周知拡大対策を図る。 ・新型コロナウイルス感染症拡大下での事業が行われるよう対策を図る。 ・事業のPRの推進を図る。

今後の取り組み方針

・既存のガイドメニューの充実・強化と新規メニューの開発を行いつつ、事業の周知拡大を行う。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな生活様式に対応したツアー・イベントを行う。また、事業のPR推進をYouTube配信等を活用して行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,492	8,492	6,793	1,699	0

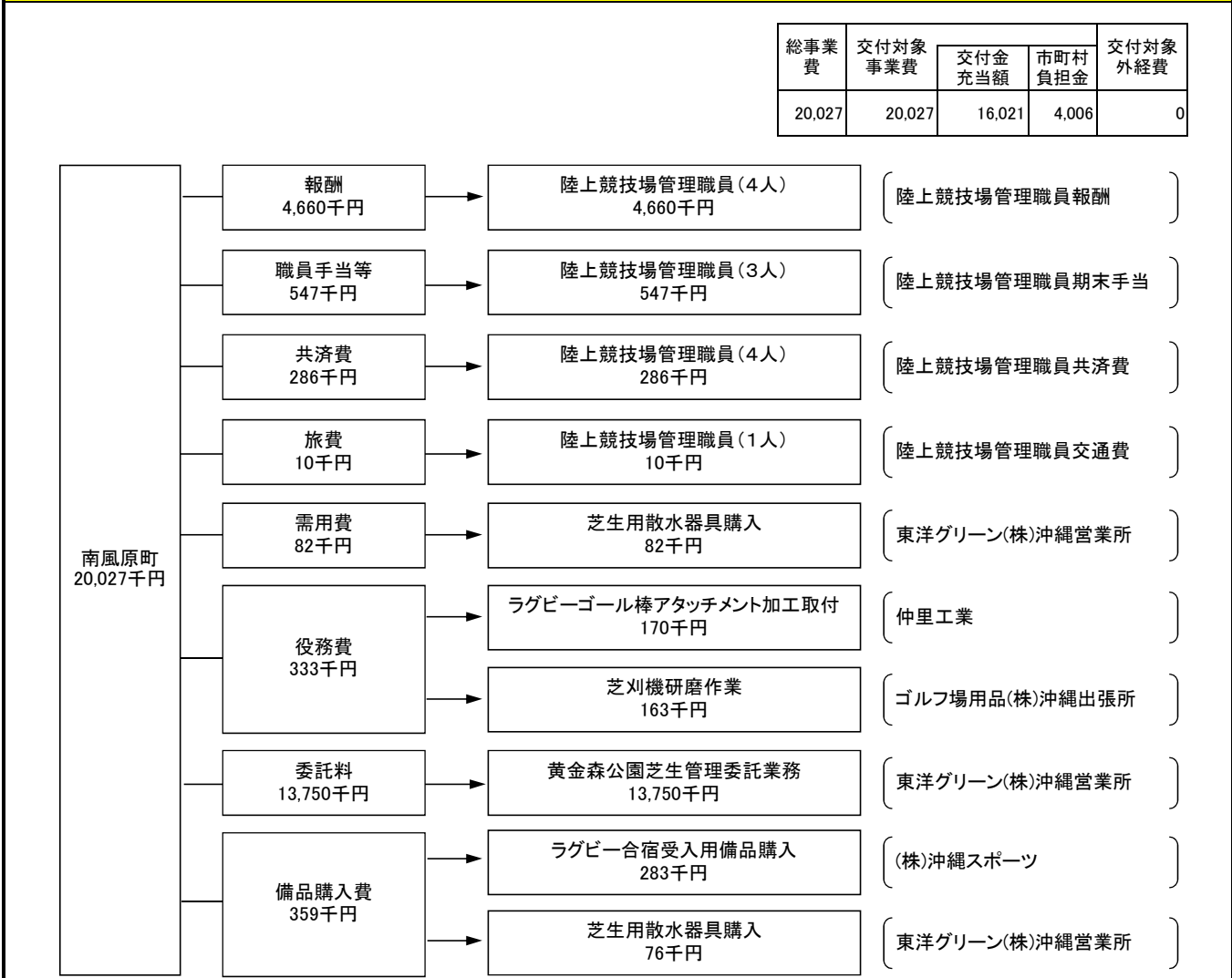


資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④ 黄金森公園スポーツ施設活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部署名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	陸上、サッカー等合宿利用者数の増加及び、Jリーグキャンプ誘致による誘客を図るため、黄金森公園スポーツ施設のスポーツ合宿受入体制等の整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	41,306	39,170	29,617	10,000	20,168
		(b) 予算現額	48,392	27,284	26,850	10,008	20,268
		(c) 増減額(b-a)	7,086	▲ 11,886	▲ 2,767	8	100
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		48,392	27,284	26,850	10,008	20,268
	B. 執行済額		44,823	26,291	26,270	10,008	20,027
	うち交付金充当額		35,858	21,032	21,015	8,006	16,021
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.6%	96.4%	97.8%	100.0%	98.8%
予算の状況の説明		・予算額が100千円増加した理由は、ラグビー合宿誘致に係る整備等によるものとなっている。 ・R2年度より事業拡大により、前年度予算と比較し10,260千円の増額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	・陸上競技場及び野球場芝生の管理委託業務の完了	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	一部実施	実施	
・陸上競技場管理嘱託員:4名	目標	(-)	(-)	(-)	(4名)		
	実績	-	-	-	4名		
達成状況説明	Jリーグキャンプ受入のため、陸上競技場の芝生整備を実施した。また、陸上競技場管理嘱託員の配置によりスポーツ施設が充実し、サッカーJリーグチームの春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿を誘致した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・陸上、サッカー等合宿利用者数:1,800人	目標	()	(1,800人)	(1,500人)	(1,800人)	()
		実績	/	1,213人	663人	757人	/
	・Jリーグキャンプ・全国大会来場者数:7,800人	目標	()	(8,600人)	(10,000人)	(7,800人)	()
実績		/	約5,900人	約6,070人	0人	/	
進捗状況説明	・合宿利用者数については、サッカーJリーグチームの春季キャンプ67人、県外大学等の陸上競技合宿で690人が利用した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により無観客でのキャンプ開催となったため、来場者数は0人となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>スポーツ合宿利用団体数は、H30年度利用と同じ19団体であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、合宿期間の短縮や、参加人数の縮小があり、利用者数が減少する結果となった。</p> <p>新たな合宿種目としてラグビー合宿の誘致活動を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により合宿の実施には至らなかった。</p> <p>合宿時には感染症対策を講じた上で実施したが、一般の施設利用者との棲み分けや、有観客の際の実施方法などが課題となった。</p>	<p>スポーツ合宿受入れが円滑に行えるよう、合宿利用時の感染症対策をルール化したり、利用団体へ感染症対策を周知するなど、コロナ渦における受入体制を整えていく必要がある。</p> <p>また、継続的な合宿利用へと繋げるため、施設の充実を図り、積極的に周知活動を行う必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>コロナ渦における受入体制をルール化したガイドラインを作成し、利用者への周知を図り安全な合宿実施へ繋げていく。</p> <p>新たな合宿種目であるラグビー合宿の実現に向け、施設の充実をPRするとともに、ラグビーチーム関係者と連携をとりながら推進していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各契約等については地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、支出先の選定についても妥当であったことから、予算規模は、適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町										
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-⑤ 南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-ア							
	担当部署名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	ものづくり産業の戦略的展開					
事業内容		本町の魅力の発信及び優れた特産品として認証した商品の販売数増加を図るため、町内事業者に対し商品開発やブラッシュアップ等の支援をし、「はえばる良品」の認定及び認定商品の販路開拓を図る。					Ⅲ-1-(1)					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)										
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
		(a)当初予算額	21,953	18,780	15,000	15,000	14,993	(b)予算現額	21,617	18,780	15,000	15,000
	(c)増減額(b-a)	▲336	0	0	0	0	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	21,617	18,780	15,000	15,000	14,993	B.執行済額	21,617	18,779	14,999	14,531	14,047
	うち交付金充当額	17,293	15,023	11,999	11,624	11,237	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	96.9%	93.7%	予算の状況の説明	販路開拓やブランド認証制度の構築・運用業務等を委託し、ほぼ予定通り事業の執行を行うことができたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴う緊急事態宣言の影響により、予定していたイベントやセミナーがオンライン開催へ変更、中止になり予算執行率が低下した。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況								
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度					
		町内事業者を対象に商品開発に関するワークショップの開催(5回)	目標	()	()	(5回)	(5回)					
			実績			6回	15回					
ブランド認証制度の構築・運用		目標	(構築・運用)	(構築・運用)	(構築・運用)	()						
		実績	構築・運用	構築・運用	構築・運用							
28年度に認証した商品のPR		目標	()	(実施)	(実施)	()						
		実績		実施	実施							
優れた特産品の町内ブランド「はえばる良品」の認証(2件)		目標	()	()	()	(2件)						
		実績				2件						
特産品の販路開拓(テスト販売出展等5回)	目標	(3回)	(5回)	(5回)	(5回)							
	実績	5回	12回	4回	5回							
販路開拓セミナーの実施(6回)	目標	()	(6回)	(6回)	(6回)							
	実績		13回	6回	6回							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発に関するワークショップを総括3回、個別開催を12回の計15回開催した。 ・ブランド認証制度の構築・運用について、ブランド商品認定委員会を開催し、2品を「はえばる良品」として新規認定した。 ・特産品の販路開拓(テスト販売)については、県内へ5回出展してテスト販売を行い認定商品のPRを行った。また、名古屋市にあるクラブグランパスでは数量限定でコラボグッズを販売することができ県外へPRすることができた。 ・販路開拓セミナーは、6回開催し、県内外からバイヤー等を講師として招聘し、SNSを活用したリピーター作りやファンを生み出すブランディング、消費者心理と購買行動についてなどを学んだ。 											
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)					
	南風原良品の販売個数増 ひよびよシフォン7,560個	目標	()	(5,035)	(5,456)	(7,560)	()					
		実績		7,200	4,272	4,124						
	南風原良品の販売個数増 ゆめかなえぼしパウンドケーキ336個	目標	()	(380)	(429)	(336)	()					
		実績		320	450	480						
	南風原良品の販売個数増 澁しカボチャ使って味わうスープの素1,890個	目標	()	(1,000)	(1,058)	(1,890)	()					
		実績		1,800	2,000	2,500						
	南風原良品の販売個数増 はえばるのまきもの87個	目標	()	(60)	(63)	(87)	()					
		実績		82	90	100						
	南風原良品の販売個数増 ウォッチナー105個	目標	()	(88)	(105)	(105)	()					
実績			100	110	120							
南風原良品の販売個数増 SANGOくっしょん756個	目標	()	(450)	(630)	(756)	()						
	実績		720	640	800							
南風原良品の販売個数増 沖縄キビまる豚1,050個	目標	()	(430)	(420)	(1,050)	()						
	実績		1,000	1,200	1,500							

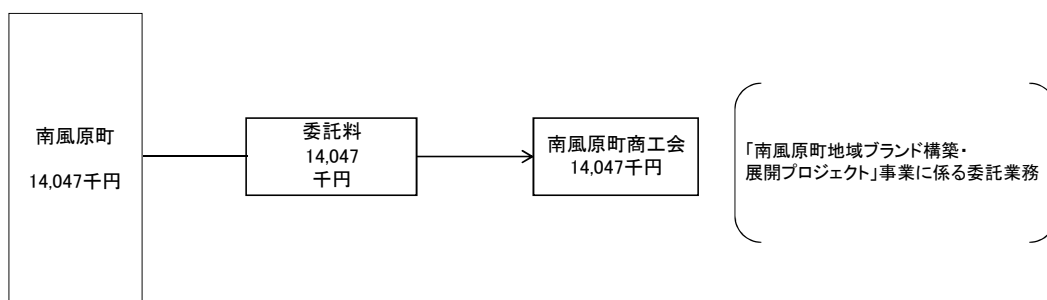
進捗
状況
説明

販売目標のほとんどを達成したが、びびよシフォンは製造所の移転等の原因により販売個数が減少している。今後は商品の安定供給が課題である。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・びよびよシフォンの販売個数の減少について、製造所が移転し製造数が減少したこと、また人気商品のEMたまごチーズケーキの販売数増の対応と新商品の開発に人員とコストを割いた結果、販売個数の減少となった。 ・新型コロナウイルス感染症対策の影響で、イベント・セミナーの中止や延期、規模縮小の対応により、オンラインによる初のリモート開催を求められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・びよびよシフォンの安定供給について、商品のブラッシュアップ及び製造コストの見直しを行う。 ・リモート開催した販路開拓セミナーにおいて、オンライン参加者より質疑応答時の会場の音声が聞こえづらい等の課題があったため、運用について改善を行う。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・新規認定となりうる商品開発に関するワークショップを行う。 ・百貨店等県内外のバイヤーを継続して招聘し、認定商品を中心に販売増、販路開拓ができるようセミナーを行う。課題が見つかった商品に対しては課題を克服できるようにきめ細やかなブラッシュアップを行う。 ・町広報誌や商工会広報誌だけでなく、新聞やテレビなどのメディア、県内情報誌や航空会社の機内誌などへの掲載依頼活動を行う。またホームページやSNSをさらに活用してPRIに努める。 ・販路拡大・ブランドPRの取り組みとして、百貨店やスーパーなどの小売業態との連携し、ブランドブースを設置するなど効果的な販促が行えるよう調整を行う。 ・びよびよシフォンの安定供給について、専門家に意見聴取を行い商品のブラッシュアップ及び製造コストの見直しを行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,047	14,047	11,237	2,810	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、出展予定だった「ありんくりん市」が新型コロナウイルス感染症対策の影響で規模縮小となり、オンライン出展となった。また、予定していた販路開拓セミナーが1件中止になったことを受け、不用額が発生した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥ 南風原町観光PR促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本町の認知度向上と地域資源の情報発信を図るため、はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	9,860	7,318	3,360	3,360	4,424
		B. 執行済額	9,669	7,186	3,360	3,360	4,398
		うち交付金充当額	7,735	5,748	2,688	2,688	3,518
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	98.1%	98.2%	100.0%	100.0%	99.4%
	予算の状況の説明	予算については共済費の実績見込により4千円を減額した。新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント自粛等により活動目標は下回ったものの、町内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施するなど、当初計画していた事業内容を概ね実施し適正に予算執行することができた。					
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況				
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		はえるん等利用数:50件	目標	()	()	()	(50件)
実績						40件	
イメージキャラクターによる観光PR活動(1年間で100回)		目標	(100回)	(100回)	(100回)	(100回)	
		実績	92回	70回	58回	34回	
達成状況説明	・イメージキャラクター『はえるん』を活用した観光PR活動については、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント自粛等もあり目標を達成できなかったが、町内や県内の各種イベントに参加して南風原町のPRを行った。また、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回、さらに観光協会主催のYouTubeへの参加等を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	はえるん等利用申請数:50件	目標	()	(50件)	(50件)	()	()
		実績		36件	27件		
	観光サイトアクセス数:207,500件	目標	()	(207,000件)	(207,500件)	(207,500件)	()
		実績		167,415件	141,297件	106,325件	
進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベントの開催数が減ったことで目標には届かなかった。						

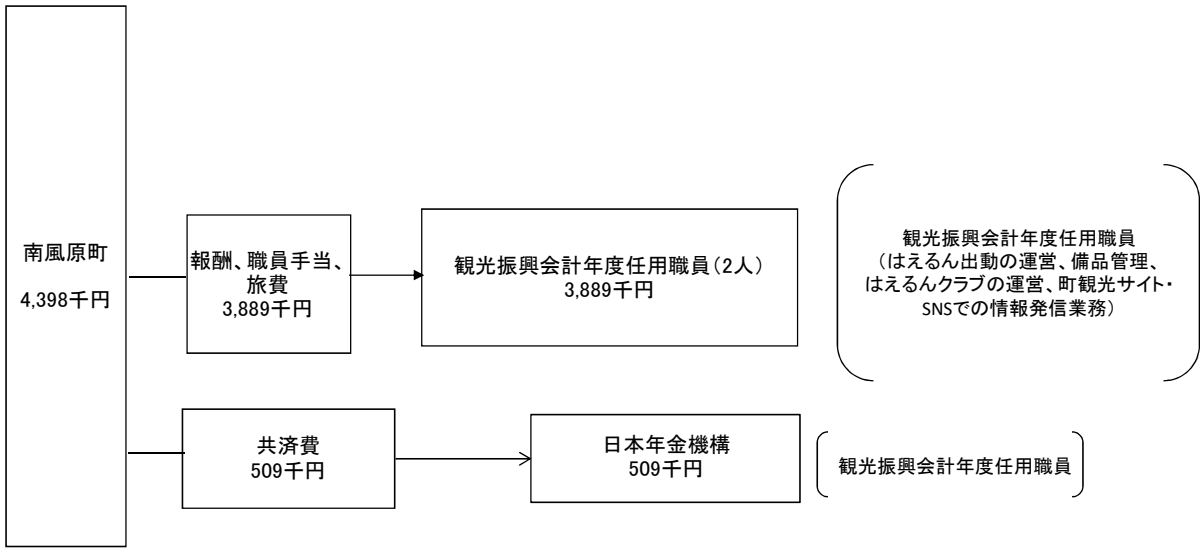
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、イベントの開催数が減り通年を通して利用申請件数、観光サイトアクセス数ともに成果目標を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大下でも一定の成果を上げるために、新たな生活様式でのイベント出演や、オンラインでの活動に取り組む必要がある。 依頼の対応のみでなく自らの発信することが必要である。

今後の取り組み方針

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、町観光協会とのタイアップ動画の公開など、オンラインでの活動による利用申請件数、観光サイトの充実を図る。
- 新型コロナウイルス感染症対策を行ったイベント等を自ら企画、運営を行う。また商工会や農協等の各種団体と協力して町特産品や観光関連のPRを実施する。
- 上記の取組をSNS等で発信することでアクセス数の向上を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,398	4,398	3,518	880	0



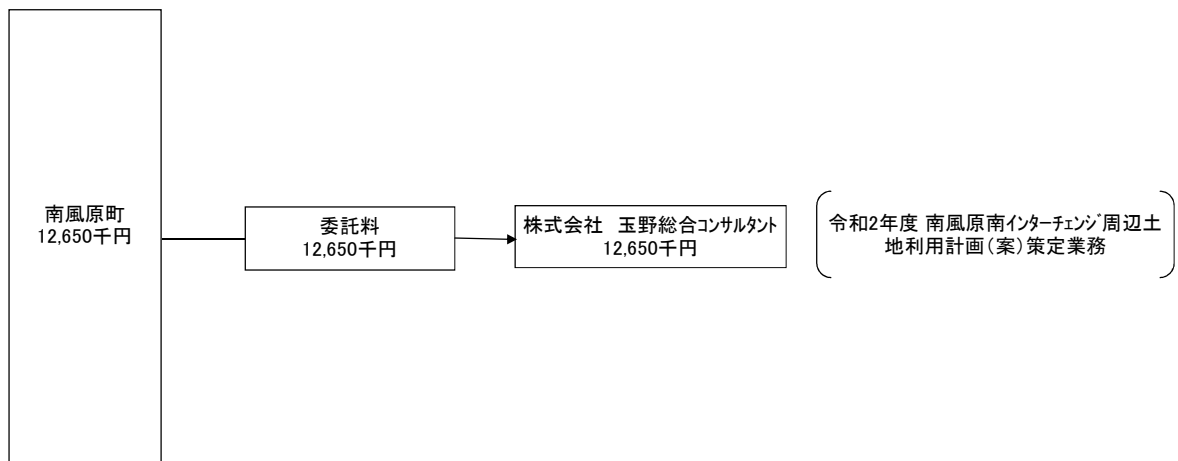
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○会計年度任用職員は面接によりしかるべき人物を採用しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり、適正な予算規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦ 南風原南インターチェンジ周辺企業集積推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)		
担当部署名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興		
事業内容	企業誘致等による産業振興を図るため、南風原南インターチェンジ周辺の特性を活かした土地利用計画(案)を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度以降)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,224	13,420			
		(b) 予算現額	3,850	12,650			
		(c) 増減額(b-a)	▲374	▲770			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	3,850	12,650			
		B. 執行済額	3,850	12,650			
		うち交付金充当額	3,080	10,120			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%			
	予算の状況の説明	増減額▲770千円は入札差金によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	上位計画の整理	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	地権者及び地域との意見交換会、勉強会の開催	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
	南風原南インターチェンジ土地利用基本計画書の策定	目標	(策定)	()	()	()	
		実績	策定				
	南風原南インターチェンジ周辺土地利用計画(素案)策定完了	目標	()	(策定)	()	()	
		実績		策定			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・関係地権者と意見交換会を重ね、合意形成を図り南風原南インターチェンジ周辺土地利用計画(素案)を策定する事が出来た。 ・企業アンケート及び、関係地権者の意向調査を実施した事でニーズの把握が出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	南風原南インターチェンジ土地利用基本計画書策定完了	目標	()	(計画書(素案)策定)	()	()	()
		実績		計画書(素案)策定			
	南風原南インターチェンジ周辺土地利用計画(素案)策定完了	目標	()	()	(計画書(案)策定)	()	()
		実績			計画書(案)策定		
	【R4成果目標】 企業誘致2社以上	目標	()	()	()	()	(2社)
		実績					
	進捗状況説明	本地区の地理的特性を活かし、まちづくりの推進における課題を踏まえた上で関係地権者との意見交換会を開催し、土地利用計画書(素案)を策定できた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・新型コロナウイルスの影響もあったが、関係地権者説明会は感染防止対策の徹底を行い、開催する事が出来た。説明会を重ねる事で地権者の機運の高まりが伺えた。</p>	<p>・地権者説明会等については開催時期を検討しながら、必要に応じ個別面談会等で開催方法を工夫を凝らす事で全体地権者の機運の高まり、意識向上へ繋げる必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・地権者の機運も高まり、照屋地区では任意組織の「発起人会」が発足された。今後は、地区の特性を活かした土地利用の実現に向けて発起人会を中心に具体的な事業化に向けての取り組みを行い、企業誘致、産業振興の発展に繋げていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,650	12,650	10,120	2,530	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、仕様書に基づき必要な費用を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・用途については、仕様書のとおり実施されているので妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧ 南風原北インターチェンジ周辺企業集積推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(8)-(イ)		
担当部署名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度		商店街・中心市街地の活性化と商業の振興		
事業内容	企業誘致等による産業振興を図るため、南風原北インターチェンジ周辺の特性を活かした土地利用計画(素案)を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度以降)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		(a)当初予算額	4,895				
	(b)予算現額	4,510					
	(c)増減額(b-a)	▲385					
	(d)繰越額	—					
	A.計(b+d)	4,510					
	B.執行済額	4,510					
	うち交付金充当額	3,608					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	増減額▲385千円は入札差金によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	計画条件の整理完了	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	地権者及び地域との意見交換会、勉強会の開催	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	南風原北インターチェンジ土地利用計画(素案)の策定完了	目標	(策定)	()	()	()	
実績		策定					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 上位計画及び関係自治会との意見交換会を開催し、南風原北インターチェンジ土地利用計画(素案)を策定する事が出来た。 企業アンケートを実施した事でニーズの把握が出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	南風原南インターチェンジ土地利用計画(素案)策定完了	目標	()	(計画書(素案)策定)	()	()	()
		実績		計画書(素案)策定			
	【R5成果目標】企業誘致2社以上	目標	()	()	()	()	(2社)
		実績					
進捗状況説明	本地区の地理的特性を活かし、上位計画の位置づけ、関係法令の整理、まちづくりの推進における課題を踏まえた上で、関係自治会との意見交換会を開催し、土地利用計画書(素案)を策定できた。						

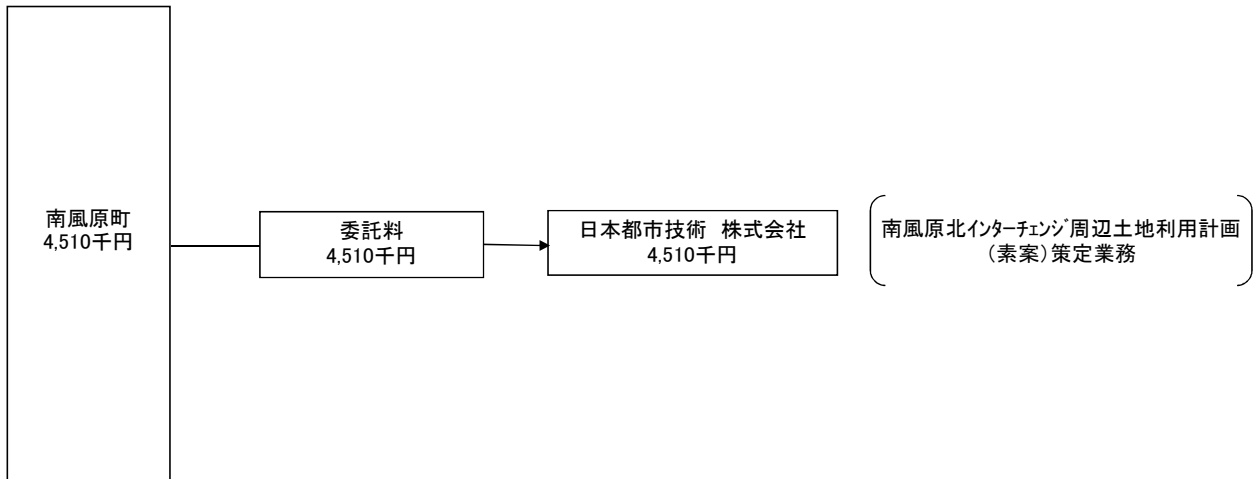
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・素案では検討区域が広範囲となっている為、次年度は具体的な手法、事業導入の検討を含め、区域を分ける必要がある。 ・関係自治会での意見交換会を開催したが、新型コロナウイルスの影響から、地域によっては参加者が少数となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係地権者の意向や具体的な手法、事業導入の検討を含め、土地利用計画の区域を分けて検証を行う。 ・関係地権者及び、関係自治会での意見交換会は新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、開催方法、開催時期、開催場所等を慎重に検討し、参加者の増加に繋げる必要がある。

今後の取り組み方針

土地利用計画(素案)を基に、関係地権者の意向調査等を踏まえ計画書(案)の策定に取り組む。また、全体計画の中で早期実現可能な区域、事業手法等を精査し具体的な手法も検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,510	4,510	3,608	902	0



資金の用途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、仕様書に基づき必要な費用を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・用途については、仕様書のとおり実施されているので妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑨ 南風原町和牛改良支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	農家の経営安定化に向け、子牛品質の向上による高値での出荷が行えるよう優良母牛導入経費の一部を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	2,000	2,000		2,000
		(b) 予算現額	3,000	2,000	2,000		1,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0		▲1,000
		(d) 繰越額	-	-	-		-
	A. 計(b+d)		3,000	2,000	2,000		1,000
	B. 執行済額		2,396	1,905	1,773		954
	<u>うち交付金充当額</u>		1,916	1,524	1,418		763
	次年度繰越額		0	0	0		0
	執行率(%) (B/A)		79.9%	95.3%	88.7%		95.4%
予算の状況の説明		予算については当初4頭の導入要望があったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により2頭の要望になったことから1,000千円を減額した。 不用額46千円は、子牛の価格が当初計画より安価で落札できたことによる。 計画どおり優良繁殖雌牛を2頭導入することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	優良母牛導入(2頭)の導入支援完了		目標 (4頭)	(4頭)	()	(2頭)	
			実績 4頭	4頭		2頭	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	計画どおり優良繁殖雌牛2頭の導入を支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から産まれた子牛と導入牛以外の牛から産まれた子牛との価格差の割合(牝)104%、(去勢)117%以上		目標 ()	(牝)108% (去勢)140%	()	(牝)104% (去勢)117%	()
			実績	(牝)98% (去勢)116%		(牝)96.39% (去勢)99.56%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	落札価格参考実績(南部家畜市場提供) R2年導入牛子牛平均価格(A)712,800円(牝2頭)、673,444円(去勢9頭) R2年非導入牛子牛平均価格(B)739,493円(牝15頭)、676,421円(去勢14頭) 価格差(A/B)96.39%(牝)、99.56%(去勢)						

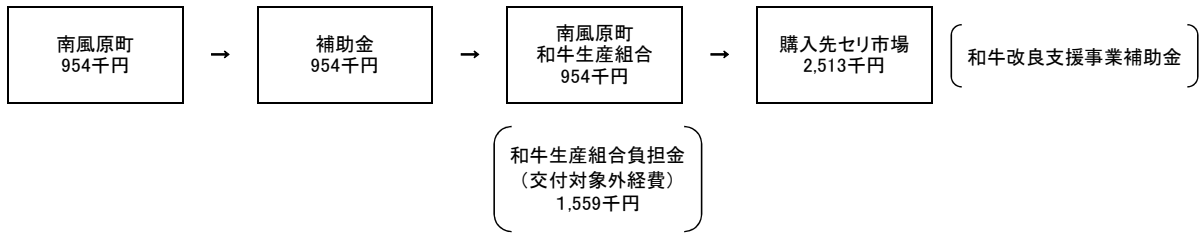
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルス感染拡大の影響による観光需要減等により、子牛落札価格が下落している。	昨年比べて導入牛生産頭数の減少がみられるため、飼養管理技術向上を図りながら、引き続き優良母牛頭数増を目指す必要がある。

今後の取り組み方針

子牛落札価格については、観光需要回復等の需給改善がみられるまで厳しい状況が続くと思われるが、実績向上に向けて今後も新型コロナウイルスの流行状況を鑑みながら、引き続き関係機関と協力して農家を支援していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,513	954	763	191	1,559



資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内農家で構成された団体であり、選定は妥当であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はあったものの、セリによる落札であるため妥当な規模の範囲内と判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は総事業費の5割以上を負担しており、事業内容からして妥当であると判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即した必要なものであると判断した。

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-10 南風原町乳用牛改良支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化		
事業内容	本事業により乳用牛の更新・増加を促進し、生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、優良乳用牛の導入を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,000	3,200	3,200		3,200
			4,000	3,200	3,200		3,200
			0	0	0		0
			-	-	-		-
		B. 執行済額	3,900	3,200	3,200		3,095
		うち交付金充当額	3,120	2,560	2,560		2,476
		次年度繰越額	0	0	0		0
		執行率(%) (B/A)	97.5%	100.0%	100.0%		96.7%
		予算の状況の説明	不用額105千円は、優良牛の価格が当初計画より安価で落札できたことによる。8頭の優良乳用牛を導入し、事業計画どおりに執行できた。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	優良乳用牛(年8頭)の導入支援完了	目標	(8頭)	(8頭)	()	(8頭)	
		実績	8頭	8頭		8頭	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
	達成状況説明	計画どおり優良乳用牛8頭の導入を支援することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	生産乳量の増加:6,000kg以上 乳質(脂肪率)の向上:0.02%以上	目標	()	乳量:6,000kg 乳質:0.02%	()	乳量:6,000kg 乳質:0.02%	()
		実績		乳量:△75,459kg 乳質:△0.06%		乳量:102,627kg 乳質:0.07%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
	進捗状況説明	令和1年実績(乳量2,605,666kg、乳質3.94%) 令和2年実績(乳量2,708,293kg、乳質4.01%) 前年比乳量=102,627kg増 前年比乳質=0.07%増					

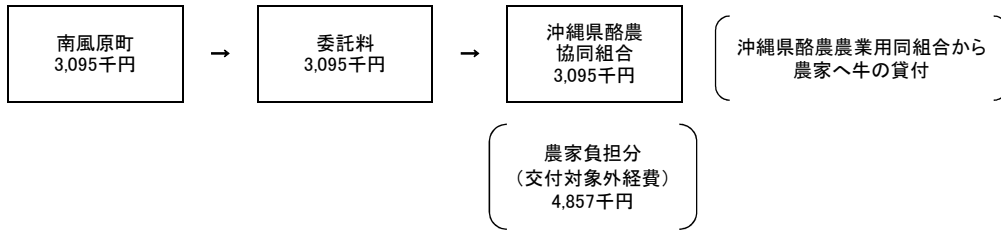
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	導入優良乳牛の増加等により、南風原町の生産乳量及び乳質の成績は前年度実績を上回ることができた。	乳用牛は夏場の暑熱による乳量や乳質、繁殖能力等に影響する可能性があるため、引き続き暑熱対策や衛生管理、育成技術等の向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

新型コロナウイルス感染拡大の影響による集会自粛や飼料価格の高騰など懸念点はあるが、これら事情を鑑みながら沖縄県酪農協同組合など関係機関と連携した事業検証データの収集・分析を行い、乳用牛の改良を支援していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,952	3,095	2,476	619	4,857



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、町内農家の経営実態を把握し、生産技術向上や経営指導等に携わっているため、選定は妥当と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は、総事業費の6割以上を負担しており、事業内容から妥当なものと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即した必要なものと判断した。

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① はえばるリサイクルループ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部署名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	町内で発生する食品廃棄物を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥を生産する。また生産された飼料で養豚を育て販売し、食品廃棄物の循環を構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	14,639	14,200	13,695	14,210	12,161
		B. 執行済額	14,639	14,150	13,695	13,021	12,161
		うち交付金充当額	11,711	11,320	10,956	10,416	9,728
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		食品廃棄物の循環構築業務を委託し、事業計画のとおり執行することができた。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況			
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		町内で排出される食品廃棄物を回収、分別し、飼料や肥料を生産することで、循環構築をはかり、生ごみ(家庭系)の年間資源化の増を目指す。	目標	(45ト)	(30ト)	(30ト)	()
実績			27ト	30ト	29ト		
町内で排出される食品廃棄物を回収、分別、飼料・堆肥の生産完了		目標	()	()	()	(生産完了)	
		実績				生産完了	
達成状況説明	計画通りに食品廃棄物を回収、分別、飼料・堆肥を生産することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	生ごみ(家庭系)の年間資源化量:30トン	目標	()	(30ト)	(30ト)	(30ト)	()
		実績		30ト	29ト	30ト	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	目標の量を資源化することができた。					

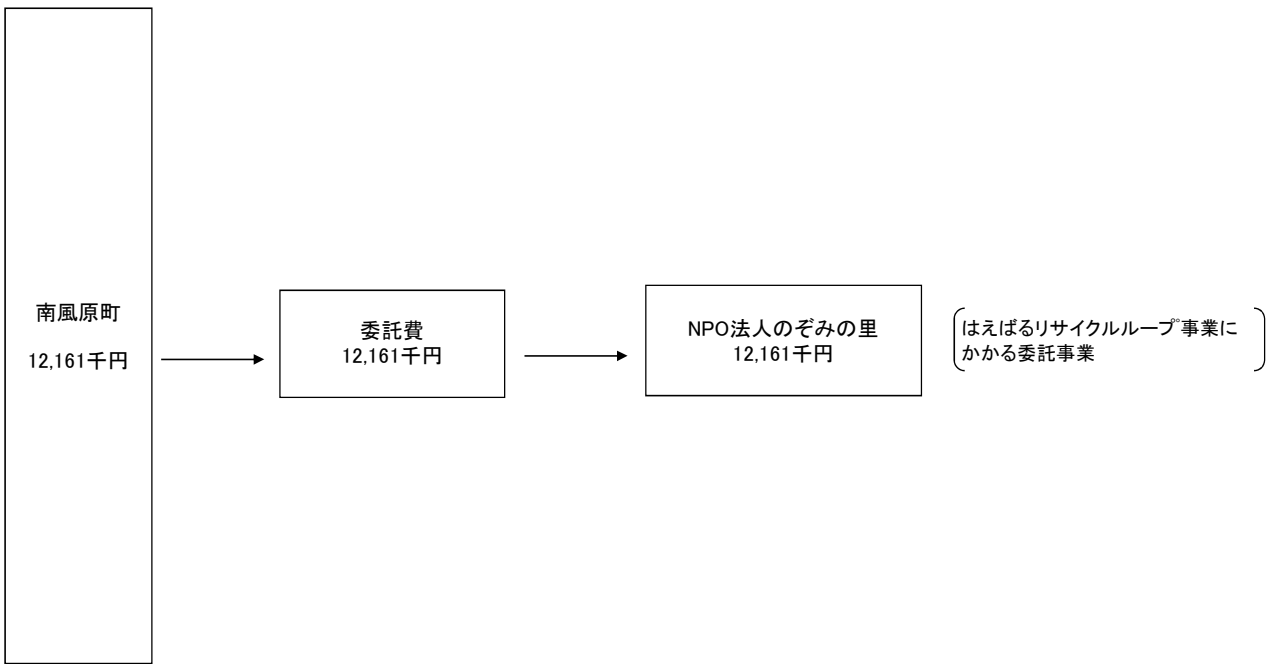
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>コロナウイルス感染拡大の影響等により外食をする機会が減少し、家庭から排出される資源化量が増え目標達成に繋がったと考えられる。</p>	<p>資源化量の目標を達成しており改善余地はないと考える。</p>

今後の取り組み方針

R3.6月より食品衛生法の改正があったことから、基準に適合した手法で豚肉加工作業に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
12,161	12,161	9,728	2,433	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○本事業は町内における食品廃棄物の循環構築を目的としており、町内に対応できる事業者が1事業者であるため地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約であり妥当である。</p> <p>○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。</p> <p>○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-② 草木リサイクル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部署名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	草木廃棄物を利用した「循環のシステム」を構築するため、町内家庭から出る草木を堆肥化し、活用する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,832	6,325	7,215	6,508	8,275
		(b) 予算現額	6,512	6,325	7,215	8,478	10,287
		(c) 増減額(b-a)	▲ 320	0	0	1,970	2,012
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	6,512	6,325	7,215	8,478	10,287
		B. 執行済額	6,087	5,548	6,697	7,920	10,287
		うち交付金充当額	4,869	4,438	5,357	6,335	8,229
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	93.5%	87.7%	92.8%	93.4%	100.0%
予算の状況の説明	予算については、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により家庭より排出される草木量が増加したことから予算額も2,012千円増額となった。執行についてはほぼ計画通りの予算執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	町内から排出される草木を堆肥化することで、リサイクル量の増を図る。	目標	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクル量の増をはかる)	()	
		実績	増	増	増		
町内から排出される草木の堆肥化完了	目標	()	()	()	(堆肥化完了)		
	実績				堆肥化完了		
達成状況説明	町内の各家庭、地域の清掃活動から排出された草木を収集し、696トン堆肥化することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	草家庭系草木のリサイクル量(堆肥化):435トン	目標	()	(455 ^{トン})	(472 ^{トン})	(435 ^{トン})	()
		実績		451 ^{トン}	477 ^{トン}	592 ^{トン}	
	町内一斉清掃等草木のリサイクル量(堆肥化):105トン	目標	()	()	(45 ^{トン})	(105 ^{トン})	()
実績				44 ^{トン}	104 ^{トン}		
進捗状況説明	家庭系草木は目標の435トンより157トン多い592トンを収集し、堆肥化することができた。町内一斉清掃草木についてもほぼ目標に近い104トンのリサイクルできた。						

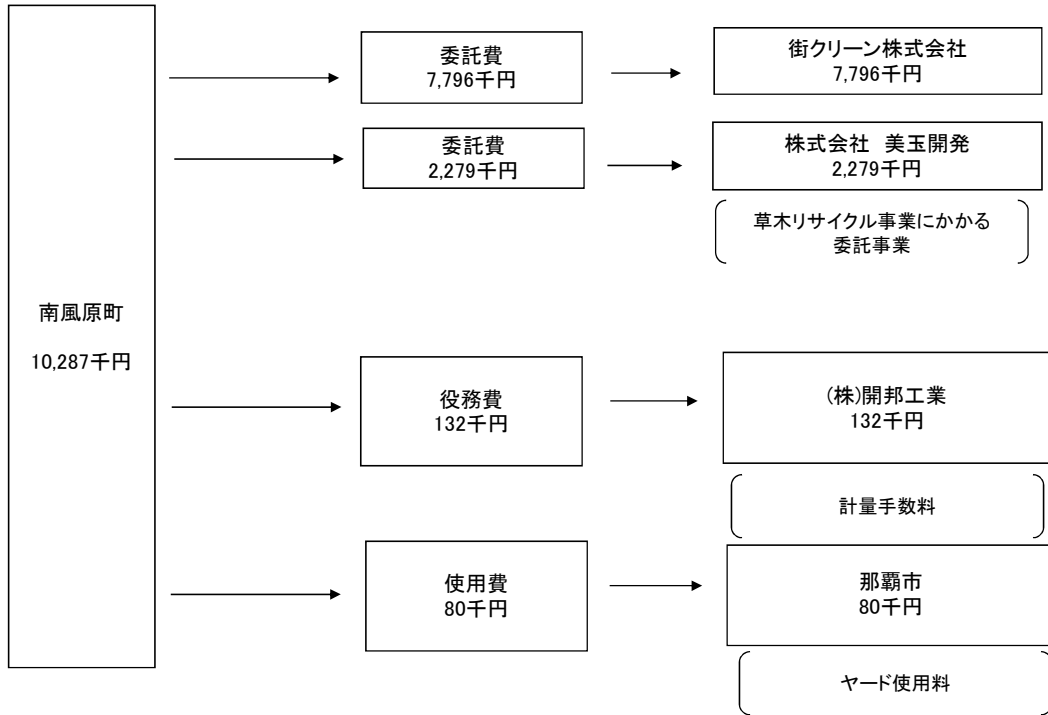
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和元年10月より地域の清掃活動から排出される草木もリサイクルの対象としたことから、搬入量が徐々に増えてきており、収集の際に異物混入がないかチェック体制を強化する必要がある。	作業員による収集時や個人による自己搬入時の分別を徹底させることで、異物の混入が減少している。

今後の取り組み方針

これまでの取り組みで草木以外の異物混入は減少しており、引き続き収集時に収集員によるチェック作業を行うとともに、草木の施設への自己搬入についても異物混入がないよう受入作業担当者と連携して取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,287	10,287	8,229	2,058	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町近郊で家庭から排出された草木を堆肥にリサイクルできる委託先が一社しかないため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は草木の搬入量の範囲内で適正な量であったため予算規模も適正であった。 ○費用・用途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 環境保全3R推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部署名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	令和元~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	本町の一般世帯から回収された資源ごみの分別作業を実施しリサイクルすることで環境負荷の少ない循環型社会を形成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,265	9,382			
		(b) 予算現額	4,265	9,382			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		4,265	9,382			
	B. 執行済額		4,264	9,382			
	うち交付金充当額		3,411	7,505			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画どおりの執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	町内から排出される資源ごみを分別しリサイクル量の増加をはかる。	目標	(リサイクル量の増をはかる)	()	()	()	
		実績	増				
	町内から排出される資源ごみを分別及びリサイクルの完了	目標	()	(分別及びリサイクルの完了)	()	()	
		実績		分別及びリサイクルの完了			
達成状況説明	目標の685トンを大きく上回る756トンを分別することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	資源ごみ(古紙、アルミ、スチール、ビン、ペットボトル、古着)の収集分別量685トン	目標	()	(284 ^{トン})	(685 ^{トン})	()	()
		実績		329 ^{トン}	756 ^{トン}		
	廃食油の収集分別量 20,691リットル	目標	()	(9,720リットル)	(20,691リットル)	()	()
		実績		9,640リットル	19,156リットル		
	進捗状況説明	資源ごみは目標の685トンを大きく上回る756トンを分別することができた。廃食油は目標には届かなかった。					

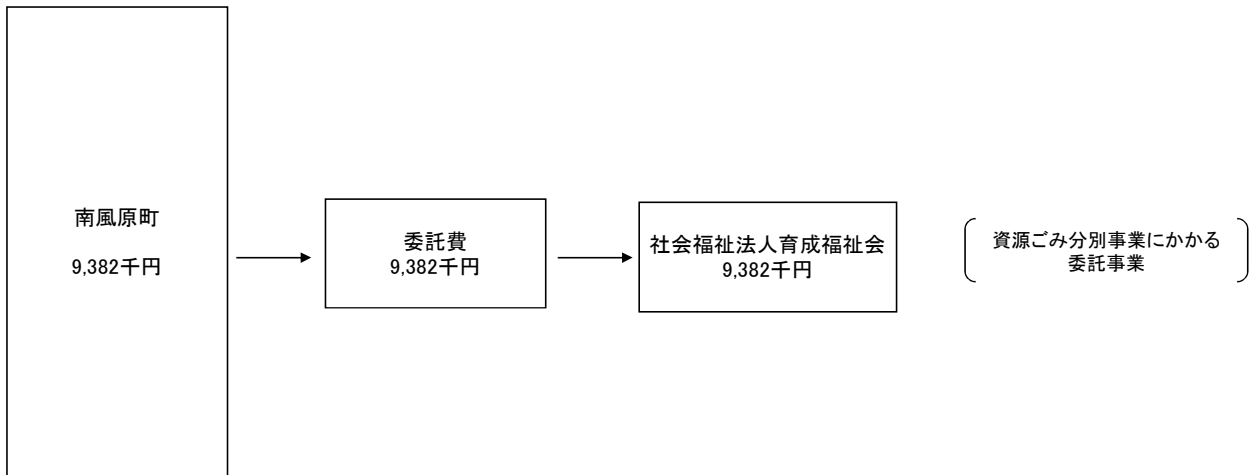
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭より排出される資源ごみが増加しており、異物混入も増加している。 異物混入対策のため作業員の増員を図ったが人員の確保ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分別作業スケジュールの見直しを検討する。 収集時に指導シールを貼り異物混入を防ぐ。

今後の取り組み方針

ごみの排出量によって作業時間の延長や作業日の追加など作業スケジュールの見直しに取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
9,382	9,382	7,505	1,877	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は町内における資源ごみを分別しリサイクルすることで環境負荷の少ない循環型社会を形成することを目標としており本町障がい者優先調達推進方針及び地方自治法施行令第167条の2第1項第3号による随意契約であり妥当である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・用途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 災害時等避難施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	災害時における地域住民の安全を確保するため、バリアフリー化等、避難所の整備を支援する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	2,500	2,500	1,250	1,250
		(b)予算現額	5,000	2,500	2,500	1,250	1,250
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	5,000	2,500	2,500	1,250	1,250
		B.執行済額	5,000	2,500	1,512	1,176	1,250
		うち交付金充当額	4,000	2,000	1,209	940	1,000
		次年度繰越額	0	0	0		0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	60.5%	94.1%	100.0%
予算の状況の説明	事業計画どおり避難所1箇所の機能強化事業を実施した。予算の執行率についても事業計画どおりの執行となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	災害時避難施設の機能改善・強化整備補助(1件)の完了	目標	(1箇所)	(1件)	(1件)	(1件)	
		実績	1箇所	1件	1件	1件	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	下記の機能強化事業への補助を実施し、災害時避難施設の機能を強化することができた。 ・玄関および駐車場入口のバリアフリー化による機能強化 ・トイレの建具改修によるバリアフリー化による機能強化 ・窓オペレーター改修によるバリアフリー化による機能強化 ・避難誘導灯及び非常用照明改修による機能強化						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	災害時避難施設の機能改善・強化整備補助(1件)の完了	目標	()	()	(整備の完了)	()	
		実績			整備の完了		
	整備された避難所を活用した避難訓練の実施(年1回)の際に、参加者に対して災害時に有効に活用できるか等ヒアリングにより、本事業を検証する。	目標	()	()	()	(1回)	()
	実績				1回		
進捗状況説明	令和2年度は避難所の機能強化整備事業を1件完了し、令和2年度末までに10か所の整備が完了した。令和3年度は事業希望箇所が無かったため、10箇所の整備で本事業は完了した。 【実績】 H24年度実績:1件(5%)、H25年度実績:2件(15%)、H26年度実績:2件(26%)、H28年度実績:1件(31%)、H29年度実績:1件(36%)、H30年度実績:1件(42%)、R1年度実績:1件(47%)、R2年度実績:1件(52%) 【訓練時ヒアリング】 R2訓練の結果、災害時有効活用ができた。						

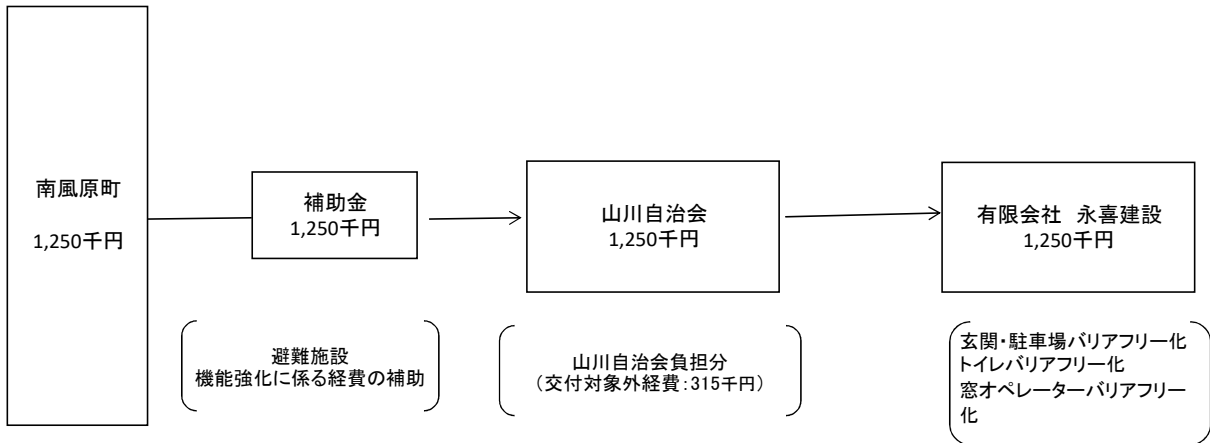
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今年度実施した自治会においてはコロナウイルスの影響により協議が開催出来ない期間があり当初計画どおりに事業が進まず年度末の完成となった。事業内容については、当初計画どおり車イス利用者に配慮した事業であり避難所の機能強化に寄与できた。</p>	<p>・コロナウイルスの影響で協議が出来なかったが、書面による協議と決裁は可能であった事から、早い段階で行政からのサポートが必要であった。事業メニューと予算規模が決定するまでの行政からのサポート方法をさらに工夫する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・コロナウイルスの影響で協議が進まない場合は、本町職員が自治会の協議の場に参加し早期に書面決議が終えるようにサポートを実施する。
 ・災害はいつ発生するか予測できないため、今後も毎年継続して避難訓練を実施する必要がある。
 ・多くの住民が避難訓練に参加できるよう、住民が参加しやすい日時(各字・自治会の行事とあわせる等)を検討し避難訓練を実施する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,565	1,250	1,000	250	315



資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町災害時等避難施設改修事業補助金交付要綱に基づき支出していることから妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○全て避難施設の機能強化に関する費用となっており予算規模は妥当であったと判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である山川自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

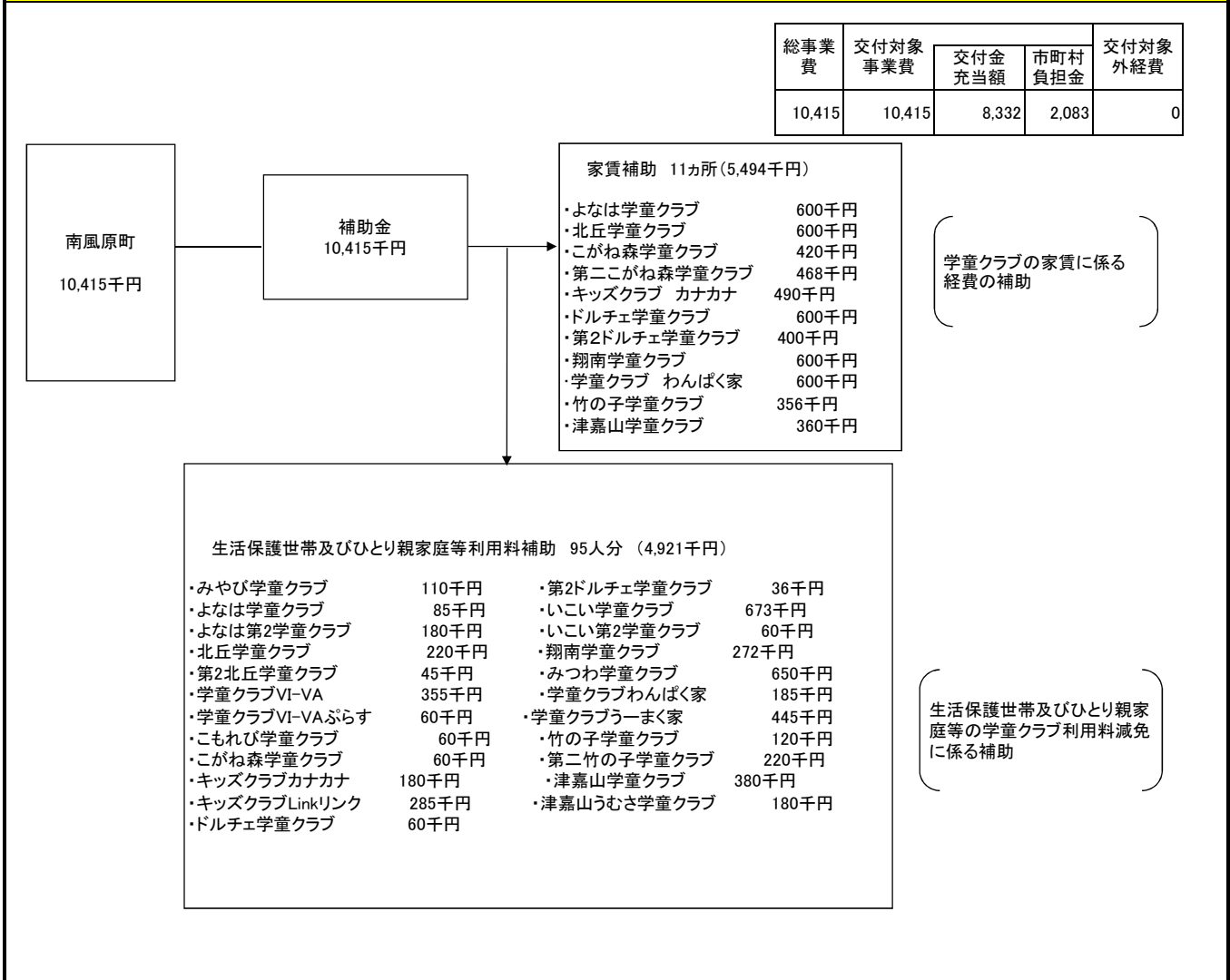
市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 放課後児童の居場所づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部署名	民生部 こども課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4		
事業内容	本町の民間の賃貸住宅等を利用している学童クラブに対して家賃の補助を実施する。また、学童クラブが生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者に対し利用料を減免した場合の補助を実施することで、安心・安全に子供を預けることができ、保護者の子育てへの負担感を軽減する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		8,010	8,160	9,468	10,068	10,627
			7,046	7,996	10,209	10,190	11,237
			▲ 964	▲ 164	741	122	610
			—	—	—	—	—
		7,046	7,996	10,209	10,190	11,237	
	B. 執行済額 うち交付金充当額		6,761	7,568	9,798	10,075	10,415
			5,408	6,054	7,838	8,060	8,332
		0	0	0	0	0	
		96.0%	94.6%	96.0%	98.9%	92.7%	
予算の状況の説明	1施設2支援のクラブが年度途中で賃貸契約書を分けたことにより家賃補助対象数が増加し補正予算で対応。しかし、実績確認時に、減免対象外になっていたケースがあり822千円の不用額が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	(1)家賃補助 基準値(R2):10ヶ所	目標	(7件)	(9件)	(9件)	(10件)	
		実績	7件	9件	9件	11件	
	(2)生活保護世帯及びひとり親家庭等学童クラブ利用支援補助 基準値(R2):92人分	目標	(82人)	(79人)	(91人)	(92人)	
		実績	73人	95人	103人	95人	
達成状況説明	賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている11学童クラブに対して、負担軽減のため1ヶ月50,000円を上限で家賃補助を実施した。 学童保育料の減免に対する支援については、対象世帯へ1ヶ月5,000円を上限に利用料減免補助を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	安心・安全に子供を預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		80%	98%	94%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	学童保育料の減免を行うことで、ひとり親家庭や生活保護世帯が学童クラブに児童を預けやすくなった。その結果、安心・安全に子供達を預けることができ、保護者アンケートにおいて子育てへの負担感が軽減されたと答えた割合が94%となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>学童を利用する登録児童数も増加傾向にあることから、ひとり親家庭や生活保護世帯の学童利用数も高止まりしている。引き続き、町で取りまとめを行っている学童の概要についてのパンフレットにおいても、利用料減免について掲載をして周知を図り、その結果、ひとり親家庭等であっても安心して学童を利用できるものとなった。</p>	<p>今後も引き続きアンケートを行い、学童を利用することによる子育てへの負担感の軽減を確認するとともに、目標の達成を継続する。</p>

今後の取り組み方針

・今後もパンフレットやHP等を活用して、ひとり親世帯及び生活保護世帯への利用料減免の周知を徹底するとともに、年々施設数の増加が見られる学童施設においても、保護者へ統一的な案内が出来るようにこれまで以上に連携を図っていく。学童利用のニーズが高まる中で、よりいっそう保護者が安全安心に学童を利用できるように保護者の負担軽減に向けて取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績等を勘案した上で補助事業者(学童クラブ)を決定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額を支出し、妥当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の上限を超える金額はクラブ負担であり、妥当で合ったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-② 認可外保育園支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部署名	民生部 こども課	事業実施(予定)年度	令和1~3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4		
事業内容	認可外保育園の保育の充実、児童の福祉向上を図るため、本町の児童が通っている町内認可外保育施設に対して、運営費補助、歯科検診補助、傷害保険補助を行う。また、町外認可外保育施設に通う児童の保護者に対して保育料軽減を目的として保護者に助成を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R1年度	R2	R3	R4	R5
		(a) 当初予算額	2,356	3,941			
		(b) 予算現額	2,356	2,650			
		(c) 増減額(b-a)	0	▲1,291			
		(d) 繰越額	0	-			
		A. 計(b+d)	2,356	2,650			
		B. 執行済額	2,131	2,152			
		うち交付金充当額	1,704	1,721			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	90.4%	81.2%			
予算の状況の説明		(1)運営費補助は当初延べ人数2,076人で予定していたが、1施設が町外に移転、1施設が補助金申請不要等の理由により実績が1,163人で913人減。歯科検診補助は173人で予定していたが、実績が71人利用で102人減。傷害保険補助は173人で予定していたが、実績が23人の利用で150人減。(2)認可外保育助成金は延べ人数372人で予定していたが、実績が224人の利用で148人減の影響により予算額1,291千円を減額と498千円の不用額が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(1) 認可外保育園への補助 5園 1.運営費補助 2.傷害保険補助 3.歯科検診補助	目標	(実施)	(5園)	()	()	
		実績	実施	3園			
	(2) 町外認可外保育園に通う町内在住者の児童の保護者への補助 31名 1.町外認可外保育児童助成	目標	(実施)	(31名)	()	()	
実績		実施	30名				
達成状況説明	・認可外保育園への補助は、5園中2園については補助金不要の申立てがあり3園での実施となり目標を達成できなかった。 ・町内認可外保育施設3カ所に運営費1人あたり月1,500円補助、2カ所に歯科検診費1人あたり750円補助、1施設に傷害保険費1人あたり800円補助を実施した。 ・町外認可外保育施設に通う児童の保護者30人に1人あたり月1,500円の助成を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・園児の保護者に対し、保育の質が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		88%	97.8%		
	・園児の保護者に対し、助成により保護者負担が軽減されたか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		86%	90.9%		
進捗状況説明	園児の保護者に対し、「保育の質が向上したか」、「保護者の負担が軽減されたか」についてアンケートを実施したところ、両方において90%以上の評価を得ることができた。						

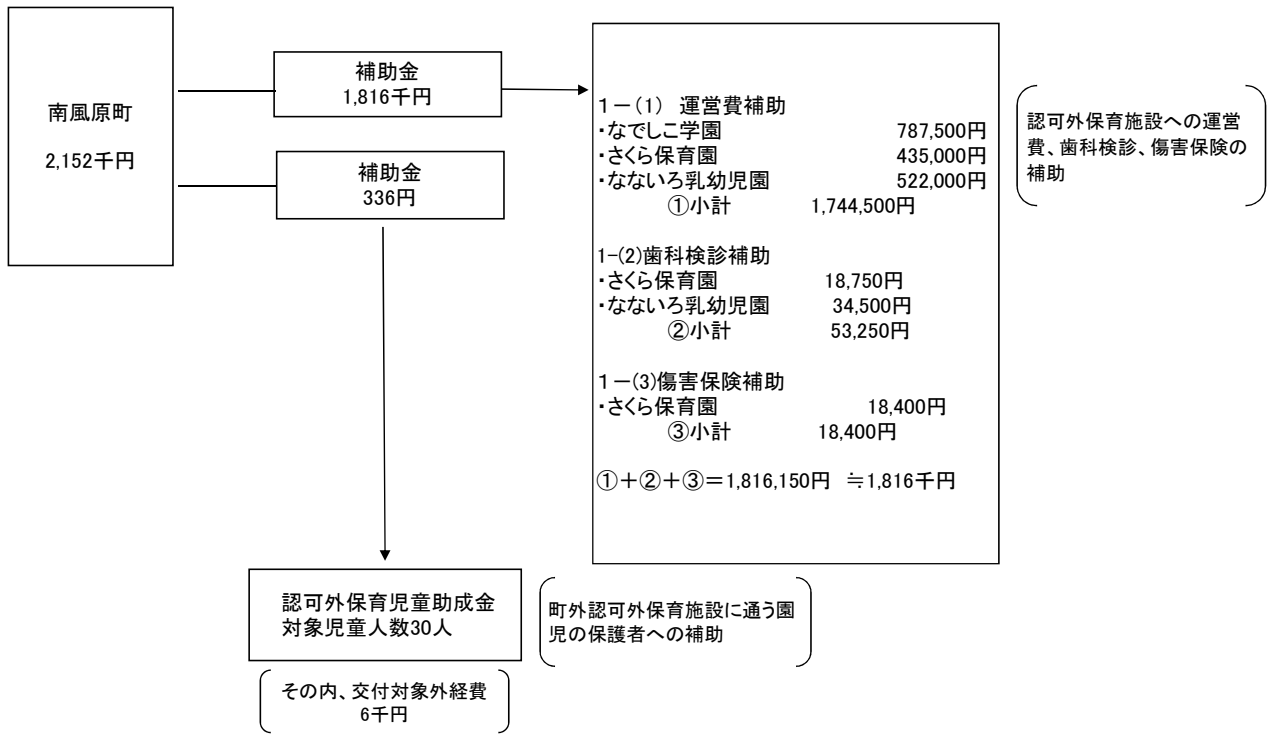
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	町内認可外保育施設へは直接施設に周知を行い、歯科検診や傷害保険未加入施設に対しては加入を促した。また、町外認可外保育施設に対しては町広報誌やホームページを利用して保護者に広く周知を図ったことで利用促進につながり、成果目標を達成することができた。	保護者に対しては引き続き保育の質の向上に繋がったかや保育の負担軽減につながったか(80%以上)を確認するためアンケートを実施し、本事業の在り方を検証する。

今後の取り組み方針

今後も制度の周知徹底に努め、アンケート調査結果の検証により保護者が安心安全に子どもを預けられる環境整備を支援し、子育ての負担軽減が図れるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,158	2,152	1,721	431	6



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○要綱に基づいての決定しており、妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な金額を支出し、妥当な額であると考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○上限を超える金額は施設又は保護者の負担になるので妥当であると考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時の支出等に関する書類により確認し適正であった。

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③ 輸入感染症対策推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-オ		
担当部署名	民生部 国保年金課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	保健衛生の推進		
事業内容	麻しん・風しんに感染した観光客が来県した場合でも当該感染症の蔓延を予防し、沖縄観光や経済等への影響を最小限に抑えるため、麻しん・風しん(MR)予防接種の受けやすい体制の構築により接種率の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		11,945				
			12,858				
			913				
			—				
		B. 執行済額	11,186				
		うち交付金充当額	8,949				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	87.0%				
		予算の状況の説明	予算については当初913千円を交付対象外経費として計上していたが、交付対象経費となったため913千円増額になった。また、R2.4～R3.3までに1,100件の接種を見込んでいたが、事業期間をR2.4～R3.2までとしたため87%の執行率になり1,672千円の不用額が発生した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	MR I 期接種目標率 95%	目標	(95%)	()	()	()	
		実績	103.8%				
MR II 期接種目標率 95%	目標	(95%)	()	()	()		
	実績	87.9%					
達成状況説明	・MR I 期については、560名の対象者(令和2年10月1日基準日)に対し581名の接種者(令和2年度実績)があり、達成率は103.8%で目標を達成した。 ・MR II 期については、教育委員会の実施する就学前健診時に未接種者への接種勧奨を教育委員会と連携し行ったが、561名の対象者数のうち493名の接種に止まり、達成率は87.9%で目標未達成となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	外国人観光客受入に起因する麻しん・風しん集団感染の発生件数 0件	目標	()	(0件)	()	()	()
		実績		0件			
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	外国人観光客受入に起因する麻しん及び風しんの感染は確認されず目標を達成した。						

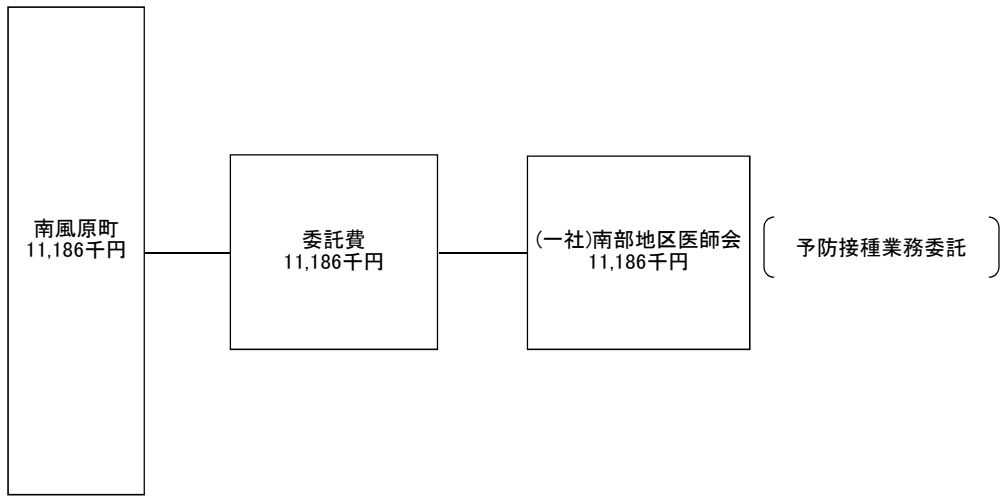
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・活動目標のMRⅡ期の受診率は未達成であったが、Ⅰ期Ⅱ期の平均接種率が95.8%であることが、成果目標達成の一因となった。</p>	<p>・MRⅡ期の接種率向上のための対策が必要。</p>

今後の取り組み方針

・町ホームページやSNS等による予防接種の広報に取り組む。そのほか、今後も教育委員会の実施する就学前健診時に未接種者への接種勧奨を教育委員会と連携し、確実に実施していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,186	11,186	8,949	2,237	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託先は多くの予防接種を実施している医療機関が加盟する医師会と地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づく随意契約となっており妥当である。</p> <p>○平均95.8%の接種率があり、予算規模は適正である。</p> <p>○使途は予防接種のみと限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 陸軍病院壕公開活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を行うとともに、整備・公開している20号壕を訪れる見学者へのガイド案内を実施することで南風原町の歴史継承及び観光の誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度()年度						
実施方法	■直接実施 ■委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	6,705	6,766	6,992	7,042	7,690
	(b) 予算現額	4,631	6,766	6,992	7,042	5,690	
	(c) 増減額(b-a)	▲2,074	0	0	0	▲2,000	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	4,631	6,766	6,992	7,042	5,690	
	B. 執行済額	4,631	4,822	5,515	5,159	3,648	
	うち交付金充当額	3,704	3,857	4,412	4,127	2,918	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	71.3%	78.9%	73.3%	64.1%	
予算の状況の説明	当初予算から2,000千円の減額は、新型コロナウイルスの影響により臨時休館および見学者数が減少したことによる南風原町観光協会への委託費の減額によるものである。 不用額2,042千円の主な理由は、新型コロナウイルスの影響により臨時休館および見学者数が減少したことによる南風原町観光協会への委託費1,663千円の減額、会計年度任用職員の欠勤に伴う報酬376千円を減額したこと等によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	開壕日数:305日	目標	(308日)	(313日)	(309日)	(305日)	
		実績	308日	309日	307日	129日	
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4月4日以降、臨時休館を実施したため、目標を達成できなかった。6月以降は、散発的に学校団体の要望に応じて屋外で見学可能な病院壕の戦跡の見学案内(活用)を行い、11月より一般見学者の受け入れも再開した。 20号壕は、砂岩・泥岩の地質に構築されており、特に泥岩は湿度の増減に伴い風化が著しく進行する恐れがある。そのため、換気とのバランスをとることが難しかったため、R2年度は、壕内を通過せずに入口側から覗きこむ見学を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(24年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	見学者数10,500人	目標	(9,804人)	(11,500人)	(11,500人)	(10,500人)	()
		実績		9,338人	9,028人	674人	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和元年度の見学者数の1/10以下に落ち込んでいる。一般見学の受け入れを11月から実施しているが、団体見学のほとんどはキャンセルとなっている。また個人の見学に関しては、月当たり60名前後の来訪があるが、2度目の緊急事態宣言が出た1~2月は県外からの旅行者が減少したことに伴い、見学者が減少している。						

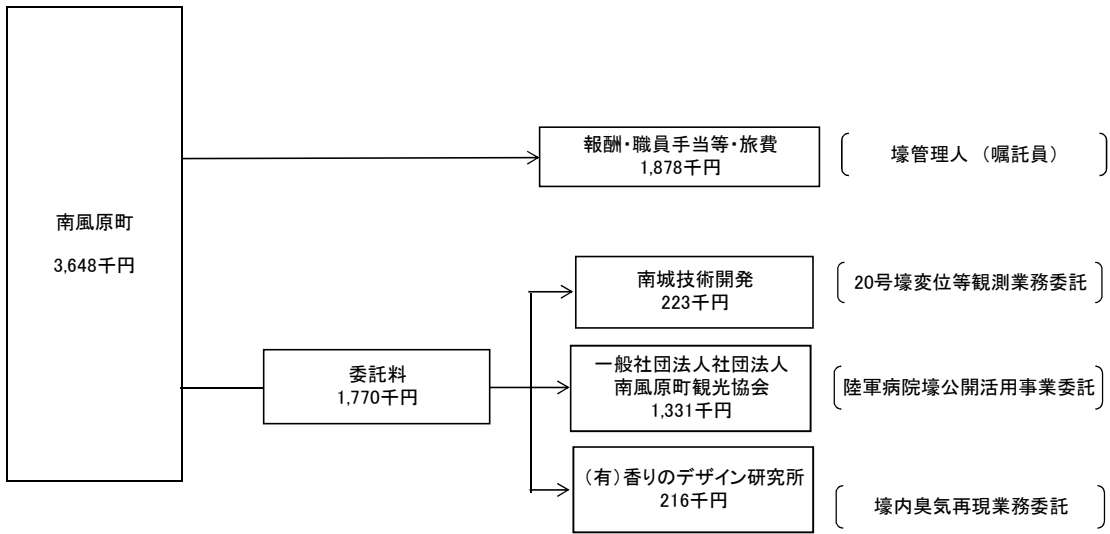
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、例年受け入れてきた県外の修学旅行や団体旅行の多くがキャンセルとなった。 ・屋外で見学可能な陸軍病院壕の戦跡に関するガイドメニューを増やして実施したが、案内時間に幅を持たせたコース作りが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の学校など、来訪するにあたり新型コロナウイルスの影響を受けにくい近いエリアの見学者の誘致強化が必要。 ・屋外で見学可能な戦跡のメニュー増加の検討を行い、より充実した陸軍病院壕の活用を進める。

今後の取り組み方針

- ・観光協会や社会教育担当などと連携して、近隣の学校団体等の誘致を強化する。
- ・現場で実際に見学者を案内するガイドと意見交換を行いながら、新たな見学コースの作成を行う。幅広い見学者のニーズに応えられるよう、案内時間や内容に幅を持たせたコース作りを進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,648	3,648	2,918	730	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託について、町の観光資源を活用する組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託を行っており、妥当だと考えている。また、臭気再現業務は契約業者1社のみしか履行できないため適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○新型コロナウイルスの影響により目標を大きく下回ったため不要額が生じているが、予算規模そのものは事業内容に見合った適正なものと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途について、事業目的の観点から必要なものか、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-② 子ども平和学習交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア		
担当部署名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成		
事業内容	小学校6年生を対象に、戦争と平和、差別や人権について事前研修や県外研修を実施し、施設見学、現地の人の交流を通して平和について広く学習する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額		1,969	1,385	1,428	1,120	1,342
			1,659	1,084	1,052	1,120	301
			▲ 310	▲ 301	▲ 376	0	▲ 1,041
			-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		1,659	1,084	1,052	1,120	301
	B. 執行済額		1,639	946	980	906	301
	うち交付金充当額		1,311	756	783	724	240
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.8%	87.3%	93.2%	80.9%	100.0%
予算の状況の説明		新型コロナウイルスの影響で県外研修が中止となったため、予定していた講話謝礼金、引率旅費、施設使用料、参加者の子どもへの補助金(研修旅費)の支出減に伴い補正予算で1,041千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	子ども平和学習交流事業参加者数:8人	目標	(8人)	(8人)	(8人)	(8人)	
		実績	8人	8人	8人	8人	
事前学習及び本研修を実施後、報告会を開催	目標	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)		
	実績	報告会を実施	報告会を実施	報告会を実施	報告書を作成し、報告に変えた		
達成状況説明	各小学校から6年生計8人を推薦を受けて事業を実施した。新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた宿泊研修が実施困難となったため、数回の座学に加え広島市のホロコースト記念館とリモート研修を実施した。また、報告会の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により実施出来ず、報告書の作成をもって報告会に代えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	参加児童の平和等に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		88%	100%		
	参加児童の保護者へのアンケートで、子どもにより変化がみられた:90%	目標	()	()	()	(90%以上)	()
		実績				87.50%	
	参加後、平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味があった児童:90%	目標	()	()	()	(90%以上)	()
実績					62.50%		
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県外研修・宿泊研修が実施出来なかったが、代わりに県内研修やリモートでの研修を実施した。また、所蔵している資料等を活用し、可能な限り学習成果が得られるよう取り組んだ。アンケート結果では、「子どもにより変化がみられた」は87.5%、「平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味があった」62.5%と目標を達成することは出来なかったが、参加した児童や保護者からは「自信ついた」、「自分の意見を言うようになった」、「親に意見を求めたりニュースを見るようになった」などの感想が寄せられた。						

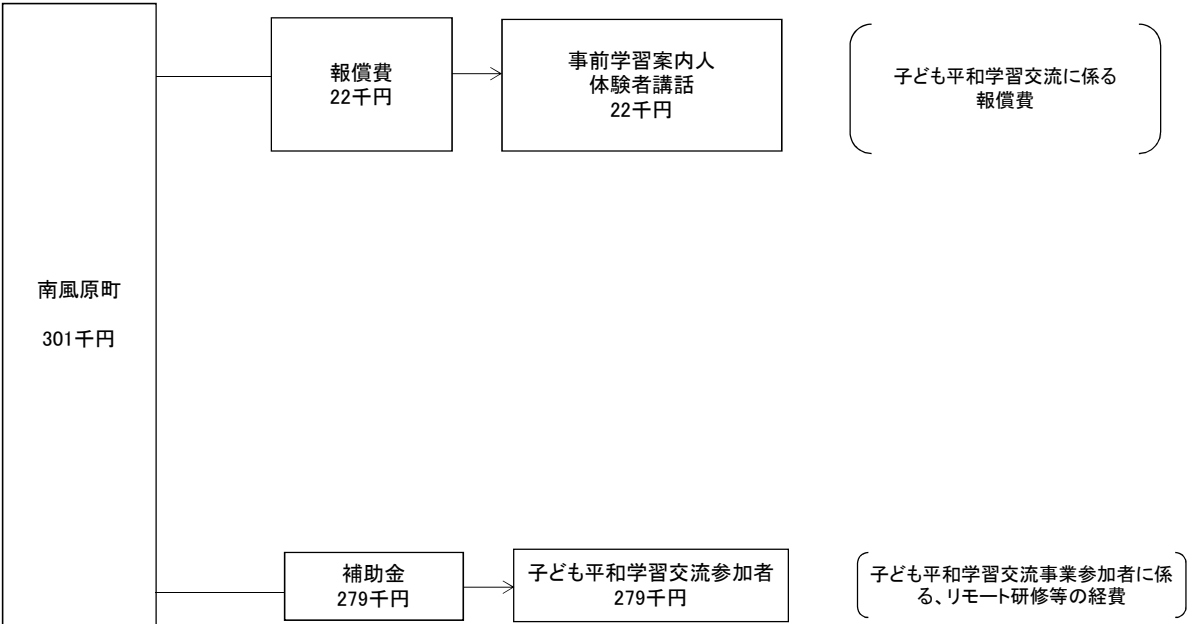
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた県外研修・宿泊研修は実施できなかったが、代わりに県内研修・リモート研修を実施した。所蔵している資料等も活用し、可能な限り学習効果が得られるよう取り組んだ。 ・事後アンケートで保護者から、参加後「子どもにより変化が見られた87.5%」では、県外研修、宿泊研修ができなくなったこともあり、例年に比べ刺激的な体験ができなかった。 ・アンケート結果で「平和や戦争、人権や差別について社会問題に興味がわいた62.5%」では、一部の保護者から、参加児童が、もともと関心を持っている子どもたちであったから特に変化を感じないのではないかと意見があったが、参加することでさらに学習意欲がわいたり、興味をそそる新しい発見や気づきに触れるような研修内容に留意するべきであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も県外研修や宿泊研修が実施出来ないことが想定される。本事業の目的達成のため、リモート研修や戦争体験者や平和ガイドの講話など、さらに感染予防対策を講じた上での実施を増やすことを検討していきたい。 ・参加児童により結果が出ることを維持するために、県外研修、宿泊研修ができない状況でも、研修内容を充実させるようにしたい。 ・もともと平和や戦争、人権や差別などの社会問題等に関心がある子ども、さらにステップアップした内容で事業に参加できるように、新しい情報・資料の収集、視点の向け方、事例紹介などを提供できるようにする必要がある。

今後の取り組み方針

これまでの研修内容から発展させる形で、関連するいろいろな映像を見る、意見を交換する、今後の自分たちのできる活動について考えさせるなどの積極的な展開に向けて取り組んでいきたい。保護者からの提案で、本事業に参加していない児童たちへも周知させるため、学校での授業や行事にも展開できる方法を考えたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
301	301	240	61	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○事業に必要な、経費を見積もり等を精査し支出した。参加者(補助金)の選定は学校長推薦により行い適正であった。 ○事業達成に必要な金額を支出し妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、南風原町子ども平和学習交流事業実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的である。研修先へ、交流に必要な経費として目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③ 伝統芸能保存育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ		
担当部署名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成		
事業内容	伝統芸能保持団体である自治会の道具・衣装・楽器等の備品購入に対し補助金を交付し、伝統芸能の保存・継承を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H28年度 3,000	H29年度 3,000	H30年度 1,000	R1年度	R2年度 132
		(b) 予算現額	317	3,000	500		449
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,683	0	▲ 500		317
		(d) 繰越額	—	—	—		—
		A. 計(b+d)	317	3,000	500		449
		B. 執行済額	316	2,389	454		449
		うち交付金充当額	253	1,911	363		359
		次年度繰越額	0	0	0		0
		執行率(%) (B/A)	99.7%	79.6%	90.8%		100.0%
		予算の状況の説明	当初の計画では1自治会への補助予定していたが、年度途中で他1自治会からの追加要望があり補正予算で317千円増額した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		伝統芸能保存育成補助(2件)の完了	目標 (3 件)	(1 件)	(—)	(2 件)	
		実績	4 件	1 件		2 件	
			目標 ()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	町内の伝統芸能継承を推進するため、2自治会へ伝統芸能保存や継承への取り組みに必要な道具の修繕や購入に対する補助金を交付した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		補助団体による伝統芸能上演等回数34回	目標 ()	(17回)	()	(34回)	()
		実績		34回		6回	
		目標 ()	()	()	()	()	
		実績					
進捗状況説明	補助金を受けた自治会の神里区は、十五夜遊びで6回上演している。津嘉山区は上演の機会をうかがってきたが新型コロナウイルスの影響をうけ上演ができなかった。						

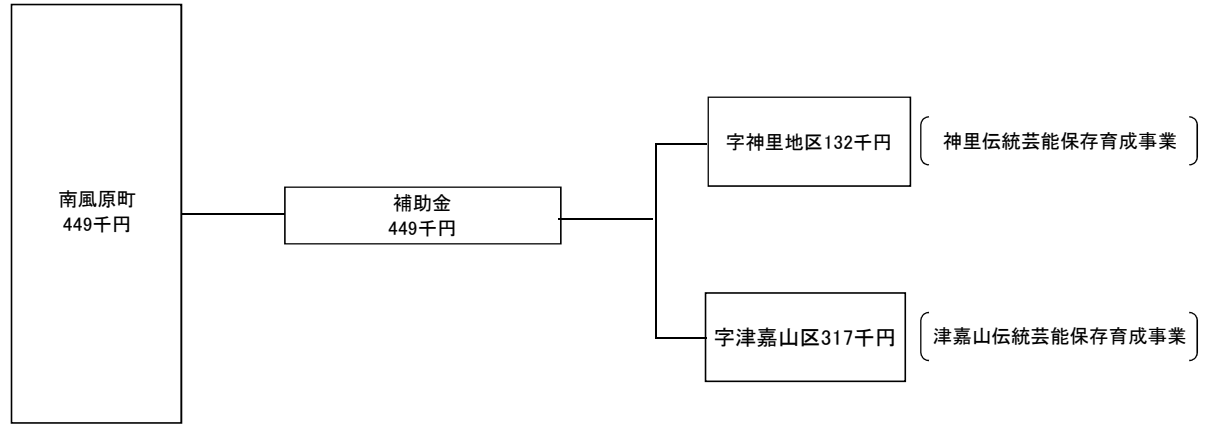
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	補助を受けた自治会は、伝統芸能の保存・継承に積極的に取り組んでいるが新型コロナウイルスの影響をうけ上演の機会が激減し当初の目標に達成に至っていない。	各種祭りやイベントなどへ積極的に出演依頼を行い、引き続き上演の機会を増やすことで、伝統芸能の意義、楽しさを普及させる取り組みを行っていく。

今後の取り組み方針

伝統芸能は地域の若者たちへの郷土愛を育て、地域の歴史も学びながら地域の中で世代間コミュニティをとる手段にもなっている。引き続き自治会や芸能関係団体と相談し、各種祭りやイベントなどへ積極的に出演依頼を行い上演の機会を確保するとともに、上演本番に向けた練習回数も増やして各字の伝統芸能への関心を高め、後継者を育成していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
449	449	359	90	0



資金の 使途の 流れ、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○予算規模は事業に要する費用であり適正だと考えている。 ○受益者との負担関係については、伝統芸能は町が保護育成し活用すべきであるとの認識で受益者負担無しで実施しており、妥当であると考えられる。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 長寿県復活食の応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア		
担当部署名	民生部 国保年金課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4	
事業内容	将来の生活習慣病の予防に向け、町内の小学校5年生及び中学校2年生を対象に生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	7,068	4,022	3,363	3,438	4,944
	(b) 予算現額	4,502	2,300	2,184	3,216	2,321	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 2,566	▲ 1,722	▲ 1,179	▲ 222	▲ 2,623	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	4,502	2,300	2,184	3,216	2,321	
	B. 執行済額	4,501	2,224	2,144	3,167	2,242	
	うち交付金充当額	3,600	1,779	1,714	2,533	1,793	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	96.7%	98.2%	98.5%	96.6%	
予算の状況の説明	学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、補正により2,623千円の予算減額を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	生活習慣病予防健診の開催	目標	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	開催	開催	開催	開催	
	健診結果説明会の開催	目標	()	()	()	(開催)	
実績					中止		
達成状況説明	コロナ禍中であつたが、事業を中止することなく新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め学童期における生活習慣病予防健診を小学5年生170人、中学2年生135人に実施することができた。生活習慣病予防健診後は健診結果説明会を開催し、親子で健診結果からの生活習慣を振り返るための学習を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画していた集団学習会は中止し、結果郵送時に生活習慣振り返りのためのパンフレット等の資料を同封した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	中学2年生の継続受診率60%(平成29年度小学5年生で受診した者のうち、中学2年生でどれだけ継続して受診できたか)	目標	()	()	()	(60%)	()
		実績				68.0%	
	将来の生活習慣病予防に向けた、食生活や生活習慣を理解できたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業の在り方を検証する	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
実績			98.5%	96.3%			
進捗状況説明	平成29年度に小学5年生で受診した者のうち、継続受診した割合は68%であった。						

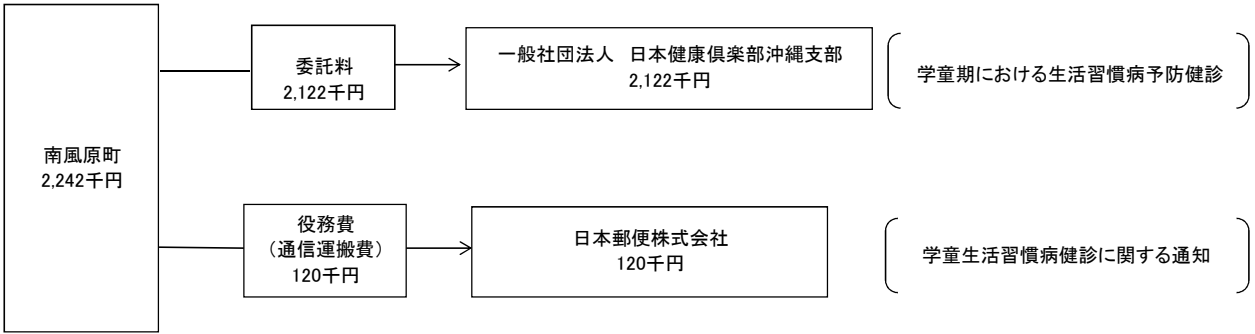
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>目標が達成できた要因として、本事業実施後に町内学校の校長会や養護教諭への情報共有などの会議を実施した。情報共有後は養護教諭から学校の内科検診後に本事業を活用するようにチラシを配布する学校も見られるようになった。</p>	<p>継続受診率向上を含む健診受診率の向上を目指し、関係機関との情報共有、町民への事業の周知に取り組んでいく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

継続受診率向上に向けての方策としては、健診後の結果を保護者がどのように受け止めていくかが重要であるため、健診結果と生活習慣とのつながりを保護者がイメージできるよう最新知見を取り入れ、当事者の生活実態に合わせた学習会を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,242	2,242	1,793	449	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業にあたっては業者調査を実施。委託事業の要件に見合う業者が1ヶ所のみであったため、南風原町契約規則に基づき随意契約を行った。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途について精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	